

Jazz Today®


Monthly Free Magazine

2006.06 No.26

Take
Free

from TOKYO, japan

**KAZUMI WATANABE
COUNT BASIE ORCHESTRA
TAKAKO AFUSO**

A stylized, cartoonish illustration of a man with a large, round head and a serious expression. He is wearing a dark tuxedo jacket over a white shirt and a dark bow tie. He has a lit cigarette in his mouth and is holding a silver trumpet in his right hand. The background is dark and out of focus, suggesting a jazz club or stage setting.



夢から覚めて翼を広げる。

香津美、待望のギタルネ第3弾を語る。 **vol.1**

聞き手：末次安里（本誌編集長）



テキストはつねに音楽を嫉妬する。その逆もまた真なり、かどろかは音楽家でないから判らない。優れた著述家には全集や選集刊行の機会が生前あるいは死後に与えられるが、いずれにせよ編まれるまでは遠い道のりだ。ハイペースで枚数を重ねる度、次回作への期待が高まる渡辺香津美の連作シリーズ、Guitar Renaissance の第3弾がじき発表される。前作の公開録音盤(@紀尾井ホール)は「夢」がキーワード、今回は「翼」が選ばれた。今月から3回に渡って新作をめぐる制作秘話を渡辺香津美自身の口から明かしてもらおう!

末次: ギタルネの取材も3回になりますが、改めて本連作の、香津美さん自身の中での位置づけをお聞かせください。
香津美: 第一弾を創った時点からなんとなくシリーズものというか、これが自分のライフワークになってゆくんだなという気持ちがありまして。周りの様相もいろいろありつつ進んでいるわけですが、ありがちな誰々の作品集を編むとか、今回はスタンダード集で固めてみるとかは考えてないんですね。そういうものではなくて、本当に自分の徒然のままにやってゆくものだなという気がしている。それでもやはり自分の拠り所になるキーワー

ドは必要ではないかな、というコトを2作目辺りから思い始めてね。それを早目に決めたほうが周りも自分も楽なものではないかなという部分はあったんですね。
末次: それで前作は「夢」というコトバが全体をつなぐ糸のように作用してました。
香津美: ですね。単にI、II、III...と数字にしてゆくよりは一作品ごとに表題的な、簡単なキーワードがあるほうがいいかなと思ひまして。それから一つの柱として毎回、千住博さんの日本画を使わせていただくという面もある印象を有していますが、千住さんによる

Kazumi watanabe

Guitar Renaissance III 〈翼〉 渡辺香津美

EWSA-0125 ¥3,000 (税込) 2006/06/07 Release

アコースティックギターを中心にギターという楽器の可能性を追求する渡辺香津美のライフワーク、「ギター・ルネッサンス」シリーズの第三作が登場! 武満徹の楽曲をはじめとする映画音楽にインスパイアされた全13曲の楽曲は斬新なアレンジによって、新しく生まれ変わった! 前作とは異なり、スタジオでのレコーディングとなった今回は、吉田美奈子他、シリーズ中初となる豪華ゲスト・ミュージシャンの参加など話題性も十分! シリーズの定番となったパッサの無伴奏チェロ曲、全ギター・ファン感涙のレッド・ツェッペリン「天国の階段」、ジャズスタンダード「チュニジアの夜」、ジプシースタイルの「クレオパトラの夢」、ボサノヴァ風ビートルズナンバー「If I Fell」、そしてラストを飾る日本の古典「月の砂漠」まで、ギターという楽器による表現の可能性を多面的に掘り下げる。更なる洗練と深みを獲得した、渡辺香津美ワールドを堪能できる一枚! SACD/CD Hybrid でリリース!

- 01. 虹の彼方へ (Harold Arlen) / 02. クーラント 無伴奏チェロ組曲第1007番より (J.S. Bach)
- 03. 天国の階段 (Jimmy Page / Robert Plant) / 04. クーラント "FROM HEAVEN" (J.S. Bach)
- 05. 翼 (Toru Takemitsu) / 06. MOMO (Koko Tanikawa) / 07. 星影のステラ (Victor Young)
- 08. シェルブールの雨傘 (Michel Legrand) / 09. IF I FELL (John Lennon, Paul McCartney)
- 10. クレオパトラの夢 (Bud Powell) / 11. アストロ・ジャンプ (Kazumi Watanabe)
- 12. チュニジアの夜 (Dizzy Gillespie, Frank Paparelli) / 13. 月の砂漠 (Suguru Sasaki)

渡辺香津美: guitar / 中牟礼貞則: guitar on tr.7
古部賢一: oboe on tr.8 / 吉田美奈子: vocal on tr.5

ジャケットの、いわゆるビジュアル的なものとの関連があってもなくても、続けてゆくことによって何か一つのコラボレーションが出来上がってゆくのではないかという気がしてたんですね。だから、そういう表題をつけようということになっていった部分もあるんですね。
末次: 前作を「夢」とした理由は以前も伺いましたが、何か付け足しはありますか。
香津美: 第2作はライブレコーディングに挑んだわけですが、ある意味「演奏」という行為自体が「夢」ではないのかと...僕の場合もアマチュアから始めて、プロになって、「人前で演奏したい」という意味での夢も実現されたわけだけでも、逆に演奏しているという行為自体が「夢」のような世界であってね。実際は演奏していない自分が「現実」で、しているのが「夢」なのか? あるいはしてい

るほうが「現実」で、していないのが「夢」なのか? どちらが本当の自分なのかはよく判らないけれども。であるならば、やはり音楽している時が自分の夢空間であつたほしいというのが、やはりどこかであるんですね。
末次: その夢空間を得るために「胃」も多少は痛められて(笑)。
香津美: そう、公開録音に臨んで結構、胃も痛くなったりして(笑)。そんな自分のプレッシャーを和らげるというか、何か一つでも言葉があると、非常に曲と曲を有機的に結び付けてゆくのが楽になるというのかな。そういう面もあるんですね。
末次: で、今回は「翼」。武満徹さんの同名曲については次号で訊きますが、なぜ「翼」?
香津美: もちろん武満徹さんの「翼」という曲も入っていますが、そればかりではなくて、アルバム全体がこう「夢」から今度は「翼

へ駆け抜けてゆくというか、そういう一つの発展というか進化、変化というのか、そういうものをタイトルからちょっと感じてもらえてくれればいいなという想いもあるんですね。
末次: IIとIIIの違いを端的に語ってもらおうとどういう点になりますか?
香津美: 前のIIは公開録音ということもあって、実際の演奏は非常に生々しい部分もある。コンサートスタイルで、生の演奏が夢の中に閉じ込められてというか、僕もお客さんもその空間でまどろんでいるような部分がありましたよね。『I』もホール録音(@銀座王子ホール)でしたが、今回はスタジオ録音ということもあつたんでね。ある程度はその中に入ってから録音しつつ、じっくりと音を作りこんでゆくことが出来るわけで。それがこれまでの2作と一番違う点ではありますね。(次号に続く)



Guitar Renaissance II
渡辺香津美

01. 無伴奏チェロ組曲第一番より (プレリュード)
02. アクロス・ザ・ユニバース*
03. ジャンゴ・マイナー・スウィング*
04. ウェーブ B・A・C・H
05. 亡き王女のためのパヴァーヌ*
06. サヨナラ / 07. パッサ・ホーム*
08. 玉子の時間 - for Takemitsu -
09. ワルツ・フォー・デビー / 10. パーバー・ブルース*
11. マイルストーンズ
12. セ・トゥ・デラ・ミア・モルテ (貴女が私の栄光を)

*5.1ch surround mix を収録

EWSA-0074 ¥3,000 (税込)
2003/2/21 RELEASE

渡辺香津美 (g)



Guitar Renaissance III
渡辺香津美

ギタルネ第3弾は、香津美自身が「とっても新鮮な体験だった」と語った、公開録音盤(@紀尾井ホール)!! 「テクノロジーのアナログ性」! 「今、ここにあることの意味」あるいは「音の記憶」を強く感じさせる超絶傑作!

01. Smile / 02. 無伴奏チェロ組曲より アルマンド
03. Three Views of a Secret
04. ワーニャ叔父さん〜 fool on the hill
05. コンドラの歌 / 06. Blue Steel
07. 旅立つ秋 / 08. Night & Day
09. So What / 10. 夢のあとに Apres Un Reve
11. Nuage / 12. Minor Swing (Reinhardt)

EWSA-0106 ¥3,000 (税込)
2005/06/22 RELEASE

渡辺香津美 (g)



カウント・ベイシーの笑顔

ニューアルバム『ベイシー・イズ・バック』制作記

text by スウィフティー菅原正二 (ジャズ喫茶ベイシー)



改めて全曲聴いてみると、こう
いっては何んだが、当夜の演奏がい
かに「本気」であったかがよくわかる。
こうなると問題なのは「音楽部分60
分」という米国側との契約である。
芸術を時間の契約書で左右されてい
いもんか？ とほくなどは思うのだが
が、あきらめましょう。古来ぼくら
が好んで聴いてきたジャズの名盤と
いわれるものもそうやって世に出さ

れた「作品」なのであります。サウ
ンド削り、選曲、曲順に丸二日間を
要しているあいだに再び何度もカウ
ント・ベイシーの笑っている顔や姿
をぼくは確かに見た。伊藤君が一枚
の紙切れにサツと走り書きしたもの
をぼくの前に滑らした。紙切れには
一行、*Basie or Basie*と書かれていた。
どうやら彼も御大カウント・ベイシー
のニンマリとした顔を見たらしい。

アルバム・タイトルはその場で『*Basie or Basie*』と決定した。
レッド・パンクから来た男、カウ
ント・ベイシーとその仲間たちが創
り上げた人を幸せな気分にする音楽
がある。
その精神を今も守り続けているカ
ウント・ベイシー・オーケストラの
メンバー全員に心からの敬意を表し
たい。

Photo Credit: Shoji "Swifty" Sugawara



ある時、早稲田大学ハイソサエ
ティー・オーケストラのOB連中で
カウント・ベイシーのお墓参りに
行った。ぼくは二度目だったのでそ
の道先案内役、お墓参りを無事済ま
したあと、ニュージャージー州レッ
ド・パンクにある「カウント・ベイ
シー・シアター」を訪ねた。これも
ぼくは二度目だったが、何も変わっ
ていないことに感動した。ちなみに
TOKYOは行く度に妙なもんが
おっ建つていて気持ちが悪い。落ち
着け！ といいたい。

何も変わっていないカウント・ベ
イシーのお墓と、生誕地レッド・パ
ンクを散策したあと「ブルック・ヘ
イヴン」という町にぼくたちは大型
バスで乗り込んだ。この野外コン
サート会場にたまたまクラロバー・
ミッチェル率いるカウント・ベイ
シー・オーケストラが出演していた
からだ。バンドのメンバーを喜ばせ
る為に岩手の名酒「南部美人」とい
う日本酒を一升ビンで六本持参した。
ビッグバンドに六本では足りないと思
ったが、重くてそれ以上は無理で
あった。二万人は入ろうかというそ
の野外コンサート会場ではぼくたちは
「今夜は日本から珍客が来場してい
る」とステージ上のクラロバー・ミッ
チェルから紹介され、全真立ち上がつ
て全方向に手を振り愛嬌をふりま
いた。

それが二〇〇一年「9・11」直前
の夏の出来事。翌二〇〇二年にベイ

シー・バンドは「ブルーノート」系
列の公演で来日、みんなで再会を喜
んだ。クラロバー・ミッチェル最後
の来日となったその時のブルーノ
ト東京での演奏は恐らくカウント・
ベイシー亡きあとの同バンドの最高
の出来であったとぼくは思う。

その前からソニーの伊藤八十八
君とぼくとのあいだで何とかカウ
ント・ベイシー・オーケストラのレコ
ディングが出来ないかと相談してい
たのであったが、なかなかそのタイ
ミングを上手く掴めないでいた。翌
二〇〇三年八月六日、クラロバー・
ミッチェル他界。次の来日公演は最
古参のバス・トロンボーン奏者ビル・
ヒューズとドラムのブッチ・マイル
スとの双頭バンドという形をとり、
同バンドはどこにかく幾多の悲しみを
乗り越えてサインケした。
「もう無理矢理レコーディングし
ちゃいましょう！」と伊藤八十八君
は動いた。二〇〇五年十月二十八日
の仙台「電力ホール」にソニーのレ
コーディング・スタッフは前日から
前乗り、ぼくは二日前から都合仙台
に三泊四日いた勘定になる。何故か
というベイシー・バンドも都合で
二日前の夜から仙台入り、というス
ケジュールであったのである。
「コ・プロデューサー」という立場
のぼくに与えられた使命は、主にバ
ンドをその気にさせて燃え尽きさ
せること。あとはリーダーのビル・
ヒューズと談合して選曲をこちらの
思うツボに持つて行くこと、だけ。

写真撮影も頼まれたが、ジャケッ
ト表と裏は昔ぼくが撮ったカウント・
ベイシーのものを使用するにと
なっていたから当日はM型ライカ二
丁で簡単に済ませ、失敗した。言い
わけになるが、どうしても演奏に気
を取られて撮影に没頭出来ない。ど
ころかフラインダーをのぞきながら
「行け、行け!!」などとバンド演奏の
応援をしてしまう始末。その夜のベ
イシー・バンドの演奏には明らかに
気迫がこもっていた全員「丸となっ
て何か」「カウント・ベイシーの音楽」
に殉教しているような境地にまで達
していた。もしそこにカウント・ベ
イシーが居たならば、恐らく「ニン
マリ」と微笑を浮かべたであろう。
今どき、こんな姿のビッグバンドは
美しい……とぼくは思った。

明けて二〇〇六年の一月二十四
日と二十五日の二日間、伊藤八十八
君と呼ばれてぼくは東京乃木坂のソ
ニー・スタジオにもつた。チーフ・
エンジニアの鈴木良博君と、主に三
人のミックス作業となったが「想
い出す。一九七七年、早稲田大学ハ
イソサエティー・オーケストラの『ハ
イウェイ/ハイソサエティー・オー
ケストラ』というビッグバンドのダ
イレクト・カッティング盤を制作し
た時と全く同じ顔ぶれ。歳月が流れ
たということすらぼくらは忘れて、
今度はカウント・ベイシー・オーケ
ストラの久々のニュー・アルバムの
制作にぼくらは没頭した。

ベイシー・イズ・バック/カウント・ベイシー・オーケストラ

結成 70周年記念ライブの最新録音盤！
このスウィング感、ドライブ感は唯一無比！

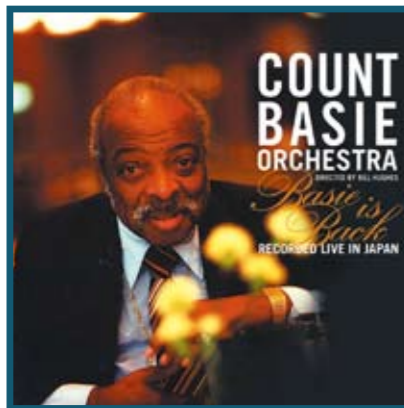
01. コーナー・ポケット
02. ディスコモーション
03. ブルース・イン・ホス・フラット
04. セグエ・イン・シー
05. ベイシー・パワー
06. ウィアー・イン・ラヴ・アゲイン
07. イン・ア・メロウ・トーン
08. ボディ・アンド・ソウル ※
09. 恋人よ我に帰れ ※
10. ワーリー・バード
11. ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド
12. ワン・オクロック・ジャンプ
13. パリの四月

※ヴォーカル曲

VRCL-18833 (Hybrid / CD & Super Audio CD) 2006/5/24 Release
高音質アナログ LP も同時発売！ VRUL 7033 (LP) ¥ 3,360 (tax in)

【パーソネル】
カウント・ベイシー・オーケストラ 指揮：ビル・ヒューズ
～フィーチャリング ブッチ・マイルス アンド メルバ・
ジョイス～

2005年10月28日、仙台 電力ホールにてライブ録音



時代は変わる、
貴子が変わる。

text by jazztoday 編集部



下の名前を欧文表記で名乗り、その歌唱形態もほとんど区別がつかない粗製乱造気味な歌姫の季節もようやく一段落し、今度はジャズ界から根性の座った期待の新星が登場した。彼女の名前は安富祖貴子（あふそ・たかこ）、話題のデビュー盤も『魂/Kon』と思わず座布団3枚を献上したくなるほどの直球性に満ちている。しかも重鎮・大隅寿男 (ds) を含む M&I オールスターズとも呼べる布陣が結集してバックアップを…記念すべき最初の一步を支えている。

安富祖貴子はキャンプ・ハンセンと向き合う街、沖縄は金武の生まれ。4歳からピアノを始め、「お祖母ちゃんがかけるラジオから流れてくる、チャンプルーな音楽で毎朝目覚めていた」という。が、基地の街で育った少女と「フェンスの向うの」アメリカ文化への憧憬を即結びつけるのは内地の人間の安易な発想だ。「私の育った伊芸は後ろが山、すぐ目の前が海で演習場があるんです。夜になると照明弾が光って、子供心にも“アッ、あそこにタマが落ちる!”って分かる。誰々の家にタマが刺さっていたとか、どここのタンクの水が零れたとか…お祖母ちゃんは（戦争）体験者だし、それでお祖父ちゃんも亡くなっているから正直、アメリカ兵は好きじゃない。お祖父ちゃんに会いたい気持ちも分かるから、私もどこかで影響を受けているとは思います。『魂』の出自、原風景かもしれない…。

松田聖子やピンクレディに憧れて、「真似て、歌って、拍手していた（笑）」世代。が、バイエルを奏でる少女に許されたテレビはNHKの『大草原の小さな家』程度、「ドリフの『全員集合!』が観たくてもダメ。ピアノに合わせて聖子ちゃんの歌を真似るのも両親がいない時を見計らってという感じでした（笑）」という。そんな貴子が尚美学園音楽短期大学へ進学するため、上京を。「思いつき歌うぞ!」と羽を伸ばし、求人雑誌を頼りにラウンジ歌手

の応募に挑戦して合格。徐々に弾き語りも始め、高橋真梨子や尾崎亜美の曲を歌い、「でも、最後は必ず布施明の〈そっとおやすみ〉を歌って（笑）」2年間の東京暮らしを堪能する。帰郷後もピアノ講師をしながら弾き語りを続け、ダイヤモンドスのサポートメンバーに迎えられたり、ハイメ新垣とのデュオ「アテナ」を結成。総勢70名の子供たちによるミュージカル『あしびなーキッズ』の演出兼舞台監督も務めたが、陣頭指揮の苦勞よりも「子供たちはいろいろな引き出しを持っているし、教えるのはもう大好き!」とふり返る。

キャリア充分の安富祖だが「ジャズとの出遭いは本当にごく最近（笑）。いろいろ聴き捲った中からニーナ・シモンの歌声に衝撃を受け、本作にも収録された〈エヴリシング・マスト・チェンジ〉がソウル志向の彼女を変えた。訳詩を持ち歩き、何度も何度も咀嚼した。「人生っていいなあ〜って魅せられました。たとえば『今日は晴れだあ!』と口に出している時と、（今日は晴れだあ…）と心の中で呟く時では表現方法も違う。同じ言葉でも折々の喜怒哀楽やいる環境によって意味が変わってきますよね。訳詩を噛み締める体験からそんなコトを学びましたね」。ニーナのレパートリーを6曲収めたデビュー作。「私自身はジャズを“夜の世界の音楽”とは捉えてなくて…〈アイ・ラヴズ・ユー・ポーギー〉にしても以前、ホテルの上に出ている二つの虹を思い出したりします。今日みたいな日の昼下がりに聴くのもいいなって。南国育ちの向日性に加え、ジャズを歌う喜びという初期衝動があふれている一枚だ。「これまでのポップスやダイヤモンドスでの録音はいろいろなものをトッピングしていった完成させるという形式。ですからジャズの『せ〜の!』で始めるレコーディングが新鮮でした。『せ〜の!』がもの凄く気持ちいいし（笑）、私の一番の夢がピアノを忘れて歌うコトでしたから、もう最高でしたね。『魂』の

歌手はどこまでも明るい。「いつも魂が宿るように歌いたい、という気持ちが自分の中にありますから、『魂/Kon』というタイトルを見せられた時はズシンと手応えを感じましたね。まだまだという想いもありますが、いま現在の段階で精一杯歌ったし、今後も度々ふりかえる自分にとっての教科書的な作品が出来たと思っています」。この控えめな自信がいい。成長過程に注目を!

魂/Kon
安富祖貴子M&I MYCJ-30374 ¥3,000 (税込)
2006/3/15 Release燃えるように生き、そして愛した…。
魂に深く響く歌。
沖縄・金武（きん）から50年に1人の
ジャズの逸材登場!

01. WORK SONG
02. I' M A FOOL TO WANT YOU
03. HERE COMES THE SUN
04. EVERYTHING MUST CHANGE
05. MY FAVORITE THINGS
06. JUST LIKE A WOMAN
07. SMOOTH OPERATOR
08. I LOVES YOU PORGY
09. MY BABY JUST CARES FOR ME
10. HERO (a.k.a. The Wind Beneath My Wings)
11. MOANIN'
12. TENNESSEE WALTZ

■パーソネル

安富祖貴子 (vo)
井上陽介 (b, arrange) b; ⑥⑩を除く
大隅寿男 (ds) ④を除く
安井さち子 (p) ⑥⑩を除く
知念嘉哉 (g)
川崎哲郎 (ts) ①②⑦
金子雄太 (org.) ④⑥⑩



text by 沼田 順

魂を震わせる音楽を 世に出したい!

55 records : 五野洋氏

ビヨンド・オール KO Project (菊池雅章 & グレック・オズビー)

55RECORDS FNCJ-5509 2005/8/22 Release

- 01. Vista / 02. Sepia Tones / 03. Fixation / 04. Broken Parade
- 05. Journey From Here / 06. Dance Of An Elephant
- 07. Anthem For Two / 08. Counteraction
- 09. Counter-Counteraction / 10. Round About Midnight
- 11. Infinity 12. Phantomime / 13. Swing Spring
- 14. Bye-Bye Song

■パーソネル: 菊池雅章 (p)、グレック・オズビー (as,ss)



© NAMI OGATA

Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

ベルベットな夜に想う

text by 尾形奈美

自分が表現の道具としてカメラを選んだことについて、時々考える事がある。今はデジカメも進歩して、ボタンひとつで誰でも遜色ない写真が撮れる。キレイな物を写せばキレイな写真ができる。表現したいなら絵でもいい。文字でもいい。それなのに、なぜ自分は写真なのか。そこに意味があるのか。そんな葛藤を繰り返していたら、自分は空っぽな表現の垂れ流しをしているような気がしてきて、撮るのをやめてしまおうかと思ったこともあった。でも最近、やっぱりやめなくて良かった、と思う。

先日、AACM(Association for the Advancement of Creative Musicians)の創始者であり、今も現役で前衛のジャズを支えるフレッド・アンダーソンのお店『ベルベトラウンジ』が閉店するとの知らせが届いた。

だいぶ前から市の土地開発計画との戦いを続けてはいたが、お店が位置する治安の悪い一帯には、ものすごい勢いで高級マンションがガンガン建ち始めていたので、お役所の決定には逆らえなかったのだろう。フレッドは、若手が模索を繰り返し、新しいジャズを生み出せる場所を提供したいという想いで、80歳目前のこの年までベルベットを経営してきたのだ。自分たちの世代が創ってきたジャズを進化させていって欲しい...教育者としての人望も厚いフレッドらしい。普段、口数は少ないけれど、お店が彼の思想そのもの。ジャズが商業化する中で、ジャズの真髄を決して忘れない伝説的ミュージシャンの一人だ。現在は基金が設立され、移転準備の最中らしい。

が、しかし。歴史を創ってきたあのベル

ベトラウンジはこの世に二度と存在しないのだ。自分がカメラに収めてきた映像たちが、この世に存在しない「過去」になったことに改めて気づいた。いや、シャッターを押した瞬間から過去だったのだ。

歴史は誰かが残さなければ残らない。ベルベットが閉店してより明確になったことは、写真が「美の表現」以上に「記録である」という事実。そう思うと、歴史の一部を写し取り、手元に残す事のできるカメラという機械を手にした事を、本当に幸せに感じるようになった。自分が出会った過去、感じた一瞬を、全く別の場所にいる人間が見て、歴史のひとつコマを感じてもらえたら本望だなあ、と思う。

写真はベルベトラウンジのパーカー。タイトルは「A Night in the Velvet」。

五野さんはいつ会っても元気がいい。ヴァイタリティが溢れている感じだ。いつも圧倒される。そういうオーラを発している。それでも人に歴史あり。55 recordsの立ち上げに至るまでには様々な出来事があった。五野さんは元ユニバーサル(ポリドール)である。1987年ー1995年あたりまでの五野さんの仕事の圧倒的な実績といえば JMT / Bambooの一連の作品リリース。スティーヴ・コールマン、ゲイリー・トーマス、グレック・オズビー、カサンドラ・ウィルソン、ジャン・ポール・ブレリー、クレイグ・ハリス...。ジャズの新たな波が押し寄せ、その筋のファンには絶賛を浴びた快挙のリリースとライブ企画。私も当時 JMT / Bamboo のいわゆる Mベースとかブルックリンとかダウンタウンにハマりまくっていた。しかし世の経済状況はバブルが弾け、これまで絶好調でやってきたことに翳りが見え始める。そこでいきなりの人事異動。昇進は遂げたものの制作から営業への異動、そしてその数年後再び制作に返り咲くも、社の事情によりクラシック部門として(ポリグラム買収による混乱・過渡期のユニバーサルに今のしっかりした形での「ユニバーサル・ジャズ」はなかった)。大手企業のいわゆるリストラが喧しくなりはじめ、世が世ならユニバーサルは五野さんの

仕切によりジャズ業界をオルタナティブな方向に牽引できたはずなのだ。「メジャーだと様々なしながらみんなもあってリリースせざるを得ないタイトルもあるんだよな。」そんな日頃のネガティブな仕事の側面と、社のルールにより55歳で現役の業務から身を引かなければならないというタイミングも相俟って退社を決意。まだまだ制作現場をやりたいという熱意と意地で数ヶ月後、55 recordsを立ち上げた。2004年4月のことであった。最初のリリースは同年8月、いきなりの3タイトル一気発売! 全てオランダのピアニスト、ミケル・ホルストラップの作品であった。これが苦戦した。が、次のリリース、同じくオランダのギタリスト、ジェシ・ヴァン・ルーラーがヒット。一瞬の安泰。「オランダの人脈はユニバーサルのクラシック部門ージャズ部門で仕事をしてた時に出来たもの。そういった人のつながりは独立してからも途切れないようにした。」55 recordsのタイトルにオランダものが多いいのはそういった理由にもよる。昨年(2005年)10月にリリースしたロバータ・ガンバリニ(vo)の『イージー・トゥ・ラヴ』はスイング・ジャーナルでゴールド・ディスク/ジャズ・ディスク大賞・ヴォーカル賞受

賞作品となった。「あれは広告費に×××万円(注:秘密)つぎ込んだからなー。おかげで〇〇枚(注:秘密)売れたよー。」相変わらず元気な五野さんである。現行タイトルはヴァーヴのライセンス再発作品を含め19タイトル。今後も6月のフェイ・クラーセン(vo)ーチュット・ペイカー・トリビュート作品より順次リリース予定がある。「個人でやって一番楽しいのは自分が聴きたいような作品を、自分の好きなようにリリース出来ること。で、制作者には二種類いると思って、演奏を経験してから音楽業界に入ってきた人と、聴くの専門から音楽業界に入ってきた人。ここは決定的に違うと思うんだよね。それは制作意図なんかにも反映されると思う。」ちなみに五野さんは前者である。これは何を表すのか。これは五野さんのプロデュース作品に対する内に秘めたる自信と見た。長年制作現場に立ち会ってきた自信が55 recordsに結実していると言っていだろう。本誌「Jazz Today」にもリリース月には記事が掲載されるのでご注目。ちなみに55 recordsの名前の由来は...もうお分かりですよ。

■尾形奈美

宮城県仙台出身。写真家。2002年 Chicago Jazz Festival に連動して HotHouse Picture Jazz 展に招待出品以来、シカゴを中心に活動してきた。03年、米国の写真雑誌「Photo Review」の国際写真コンテストにて第3位を受賞。今年2月仙台にて初の個展。



連休中、編集部からの転送電話に出たら、「表紙のイラストが気に入ったのでバックナンバーをどうしても欲しい!」との中年男性と思しき声が…。残部0なのでお断りしても「送料を出しますから…」と無念そう。

ジャズ音楽堂

連載3

どこのネット・オークションでも売値を付けて出品されているらしい本誌。痛し痒しの定着ぶりが伺えるが、タジマ画効果の証しでもあるだろう。というわけで今回の本欄は「ギタリスト特集」であります!

絵と文
タジマヤスタカ

ジャズ歌手を夢見ていた頃。

text by
原田芳雄

オンキヨーのAV視聴室「マリンシアター」で、何十年ぶりにお気に入りのジョニー・マティスの「イツツ・ノット・フォー・ミー・トゥー・セイ」(×チャンス・アー)を聞きながら、僕の部屋にも50インチのテレビとサラウンドにしてあるんだけど、機械に弱くて、全部若い連中にセッティングしてもらいます、と語り始めた原田芳雄さん。昭和24年に縁故疎開から東京に戻り、足立区に住めるようになった芳雄少年は、荒川の土手から川越しに見える銀座のネオンの明るさに憧れ、次から次へと侵食するアメリカの若者文化に胸ときめかせながら、早く川向こうに逃げ出したい、ジャズ歌手になって一旗上げるんだと心に決めたものの…。



原田芳雄

1940年、東京都生まれ。俳優養成所を卒業後、『復讐の歌が聞こえる』で映画デビュー。以降、『われに撃つ用意あり』『浪人街』でブルーリボン賞主演男優賞、『寝盗られ宗介』で日本アカデミー賞優秀主演男優賞、『鬼火』で毎日コンクール主演男優賞を受賞。さらに2004年『美しい夏キリシマ』『父と暮せば』『ニワトリはハダシだ』で報知映画賞助演男優賞を受賞するなど、多数の賞を受賞。これまでの映画出演作品は100本を超える。2003年には紫綬褒章を受賞。映画、TVなどで幅広く活躍。

日本は復興のまったただなかでしたから、毎日色んな住宅のチラシが入っているんです。その中から理想の家を切り抜いてノートブックに三冊くらい持っていました。将来ジャズ歌手になって家を建てる時の参考のためだったんです。でも、それも全部燃やしました。歌を諦めてからは山岳部に入って山に登ってました。山小屋のオヤジになろうと決めたんですけど、それにも挫折しちゃったので役者になりました。

編集協力：ピンポイント

日本の歌謡史の中で、歌謡曲をスタンダード・ジャズが乗り越えた一瞬があったんです。1950年代のことです。

ひばりさんを始めて、江利チエミさん、旗照夫さん、ティープ釜沼さんなんかジャズを歌い、ジャズ・メンがバケツに札束を押し込んでいた時代です。戦争が終わって一段落はしたけれど、周囲には爆弾の跡がいっぱい残っているその頃、アメリカから若者文化が続々と流れ込んできて、第1次ローラー・スケート・ブームというのがありました。

東京では後楽園のローラー・スケート場が頂点でしたけれど、焼け跡だらけの下町にも、コンクリートを流し込んで、まわりに柵をつけた即席ローラー・スケート場が出来ました。

ラウド・スピーカーでががが音楽を流すんですが、スケート場の主人の趣味によって音楽が違う。僕が通ったところはスタンダード・ジャズとか、ビッグ・バンド、グリーン・ミラーなんかがかかっていた、中でもジョニー・マティスの独特の歌い方が耳についたんです。シナトラやベリー・コモとは違った個性的な歌い方が新鮮で、自分の好みにぴったりだったんです。中学一年の頃です。

今までは歌謡曲、浪曲、演歌しかなかったので、ジャズの持っている明るさとリズムに憧れ、ラジオもFENばかり聞いていました。当

時はヒット曲の譜面を1曲ごとに本屋で売っていたので、その譜面を見ながらよく歌ったものです。真剣にボーカリストになりたいと思って、ジョニー・マティスの歌い方にはかなり影響を受けました。

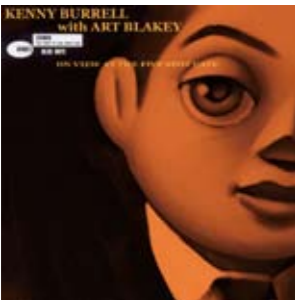
当時、歌謡曲は『NHKのど自慢』があり、ジャズは文化放送で『素人ジャズのど自慢』という番組があったんです。

有楽町のビデオ・ホールで本選があるんですが、予選には100人くらい来て、本選には毎週5人づつ出られるんです。司会は丹下キヨ子さん。審査委員がティープ釜沼さん。

その番組に中学2年の時に出演して「バラの入れ墨」というパート・ランカスターの映画主題歌を歌ったんです。五厘刈りで詰め襟着た中学2年生が「ローズ・タトゥー」、かなりパンクですよ、最年少出場でした。

僕の前に歌った大学生が鐘三つだったので、やばいな〜とは思ったんですが、歌い終わった途端に鐘一つ。グンゼの靴下とキスミー香水を参加賞としてもらいましたが、こんなものいるか〜って荒川放水路に捨てちゃいましたよ。

かなり歌には自信がりましたが、その時、僕の歌手に対する夢が終わったんです。少年の夢はラジカルだからね。次の日にかなわないう夢なんてダメなんですよ。



アット・ザ・ファイブ・スポット・カフェ ケニー・バレル

バレルと言うと、ほどよい黒さがありながらもちよいと小粋で洒落てるねえどうもって印象なんです、このアルバムでもメンバーがメンバーです。前を見ればブルックス、後ろを向けばティモンズにブレイキーと真っ黒けのソウルフル包囲網!ライブの熱気もあってバレルもいつもよりさらに黒く熱くぶっとめて。

ティナ・ブルックス(ts) ケニー・バレル(g)
ボビー・ティモンズ(p) ローランド・ハナ(p)
ベン・タッカー(b) アート・ブレイキー(ds)
'59年

1曲目はガレスピー作のブルース「パークス・ワークス」。あくまでもシングルトーンでブルージーに歌うバレル。間の取り方がまたカッコいいですね。淡々とブレイキーが刻むハットとスネアがいい感じでノせています。

ブルックスが徐々に盛り上げていき、ソウル真打ティモンズ登場で黒さ爆発、いつものブロックコードでイェ〜。4曲目「レディ・ビー・グッド」ではライブで吹きまくるブルックスの演奏がたっぷり堪能できるのもファンには嬉しいところです。そして後半の聴きどころは5曲目の「ラバー・マン」。これ聴きながら一杯いきましょう。

写真を大胆にトリミングしてデザインされたジャケットもカッコいいですね。



トゥルー・ブルー マーク・ホイットフィールド

バップのココロを今にお伝えするギタリスト、マーク・ホイットフィールドでございます。この人はプレイもいいけどなんか見た感じや雰囲気もカッコいいですねえ。

ブランフォード・マルサリス(ts)
ニコラス・ペイトン(tp)
マーク・ホイットフィールド(g)、
ロドニー・ウィタカー(b)
ケニー・カークランド(p)
ジェフ・ティン・ワッツ(ds)
'94年

マルサリス一味、そしてマルサリスチルドレンともいべき(?)ホイットフィールド、ペイトンという組み合わせ。

やたらとブルースばかりやっているのですが様々なスタイルの曲や雰囲気、メンバーの出入りもあってなかなか飽きさせません。半分くらいは自作曲で、あとの半分の曲はパーカー、モンク、トレイン、ランディ・ウエストン、ニール・ヘフティなどそれぞれタイプの違う個性あるスタイルの曲をやっていて、これらをホイットフィールドがどうこなすのかも楽しめます。全体的にゆったりとリラックスした雰囲気的好演奏。



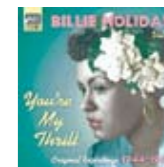
抱きしめたい グラント・グリーン

タイトル曲となっている「抱きしめたい」はもちろんビートルズの「I Want To Hold Your Hand」の事ですね。こういうのをジャズでやったりするとたまに、グリーンもジャズらしさを失ったとか、堕した、みたいな言い方をする人がいますがつまらん物言いです。今頃の季節、天気の良い日にビールでも片手に楽しむと最高なんだから。ジャケットの女の子だって可愛いし。

ハンク・モブレイ(ts)、グラント・グリーン(g)
ラリー・ヤング(org)、エルビン・ジョーンズ(ds)
'65年

ゆっくりしたテンポのタイトル曲、淡々とメロディをつま弾くグリーン、モブレイも和やかな雰囲気もいい感じ。いつもは眉間にしわよせてコルトレーンと猛烈にゴリゴリとやってくるエルビンもここではリラ〜ックス。ゆったりと抑えめにグルーヴ感のあるボッサのリズムを作り出しています。2曲目は一転して急速テンポの「スピーク・ロウ」が炸裂、続いてまったく「ステラ・バイ・スターライト」、ボッサの「コルコバード」など馴染みのスタンダードが続きます。5曲目の「スタート・オブ・サムシング」がまた良い演奏で、軽快にスイングしながら実によく歌うグリーンが楽しめます。普段ジャズをあまり聴かない方にも親しみやすい1枚かと。

e-onkyo.com



セピア色の音楽がここにある

ビング・クロスビー、ビリー・ホリデーなど往年の名アーティストの1930年代から1940年代の録音を複製配信中!

HD高品質音楽配信サイト

e-onkyo music store

http://music.e-onkyo.com/

抒情と哀感と 剥き出しの野生。

原点回帰したピアニストのTrio 新作

text by @ SUETSUGU



大石学トリオの新作『Voyager』の1曲は意表をついて、チャーリー・パーカーの〈confirmation〉で幕を開ける。以下、故・本田竹広氏に捧げたラストのタイトル曲〈Voyager〉まで9曲のオリジナル曲が並び、今回は大石の奏でるエレピやオルガンの響きも披露されている。が、そういう内訳の違いもさることながら、最も印象的なのは大石のタッチがトリオ第一弾の『PAINTED DESERT』や二作目の『Half Step』の頃のペルベット感覚とはかなり違って聴こえるという点にこそある。一言でいえば“剥き出しの野生”が前面に出てきているというか、とにかく鍵盤の上に吹く風の感触がこれまでの作品とはかなり違う。ファンキーでハードボイルドな側面が強化されたぶん、音の行間から立ちのぼる哀感や鎮魂の色彩が増量されたようにも聴こえる。この変化の要因はどこにあるのか…と考えて、思い至ったのが前作『くり返されること～Seasons Return』について取材した際、大石自身が呟いた次の言葉であった。唯一の日本語タイトルを冠した同作でピアニストの彼は尺八や篠笛の腕前も披露し、新生面を覗かせたが、その効果に関して「今は弾いている時に凄く息を吸っていると思うし、それがいいと思う。それと尺八や篠笛は半分空けたり、わざと鳴らない音で哀しみを表わしたりする。ああ、それもピアノで出来ないことはないなと思って、だんだんとそういう音になってきた」と語っていた。その音色の変化は米木康志 (b) から指摘され、「これまではピアノをデジタルっぽく弾いている感じがあったけれども、少し土着っぽく響くようになったね」と評されたという。ならば呼吸法の深化が定着し、その間合いや譜面に表わせない響きの濃淡がより具現化された作品が『Voyager』なのか。素朴な印象の違いを本人にぶつけてみたら、「ああ、違いますか(笑)。今回は笛禁止令が出たんですが(笑)、仰るとおり、笛の影響はあるだろうし、それをピアノでやるという感じにはなっているかもしれませんがね。ふだんの自分もピアノを弾いているというよりは管楽器を吹いているような気持ちでやっている部分がありますから」。

ピアノは『NEBULA』と同じスタインウェイのフルコンを使い、

『PAINTED DESERT』や『Half Step』の頃の小さいピアノで今度もやったら潰れちゃうというか、下のほうが鳴り切らなかったと思う」と説明するが、アグレッシブな側面の表出は何か理由があるのだろうか。「本当は、というか根はこっちなんじゃないかな。30代で創った『PAINTED DESERT』や『Half Step』は“こういうのをやってみたい”と思ってやっていた頃の作品で、そういうのを真正面から取り組んで録音したことがなかったから挑んでみたわけで。本当はガンガン弾くほうだし、それこそ20代の頃は1日に弦3本を切って怒られていたクチですから(笑)。さらにこう続けた。「で、一度やっちゃうと両方は無理なんですよ。ガシガシ弾くとエヴァンス系を同居させるのは無理なの。興味ぶかいは期せずして本田竹広追悼盤とも呼べる本作で“野生の回復”が成されている点だろう。「そもそも本田さんみたいに弾きたいと思ってピアノを始めたクチですからね。直接教えられたという記憶はほとんどなくて、いつも『弾いてみる』と言われて本人を前に弾いていくくらい。一度、コードの押さえ方を4つ教わった程度なんですよ。本田さんに似せてもしょうがないし、“本田の弟子”みたいな見られ方もするけれども、それも嫌だなと思って(笑)」。が、似て非なるものの遺伝子は、大石の心の中にこそ生きているようで、「そういえば本田さんもカリブソが好きだったなあ…って、今回の作品を作りながら思い出したりね。全編を60分以内で纏めようと思図した新作の中にあって、3曲目の〈島〉は10分38秒にも及ぶ長尺もの。「これはテレビ東京が午後放映している映画劇場みたいのがあるじゃないですか。あれでブルック・シールズ主演の『青い珊瑚礁』が流れて、ボケェ〜と観ながら単純にいいなあ…と思って(笑)、創った曲なんですよ」と明かすが、そんなある種の清涼感で〈Coral〉〈Water Bridge〉と聴き続けてくると、いきなり〈B cliff〉というシリアスなタイトルが…かの地の惨劇については敢えて触れないが、『Half step』収録の〈Peace〉や前作の〈Elegy〉にも通じる大石学の“現実を見据える視点”が反映されている作品だ。ピアニストは音で発言している！



Voyager 大石学トリオ

EWSA-0123 (TGGS-83) CD/SACD ハイブリッド
¥2,800 (税込) 2006/5/24 Release

様々な風景を描写するかのように配置された十篇の楽曲。溢れ出る旋律そのままに、疾走するピアノトリオを経て、献辞のフィナーレまで。大石学トリオと旅する一遍の航海。

- 01. Confirmation / 02. Funky "M"
- 03. 島 / 04. Coral
- 05. Water Bridge / 06. B Cliff
- 07. Chad / 08. Toccoripua
- 09. Plants / 10. Voyager

All songs composed by Manabu Ohishi
except trk 1 by Charlie Parker

Manabu Ohishi: piano, hammond B3 organ, melodion
Yasushi Yoneki: bass
Dairiki Hara: drums

くり返されること ~ Seasons Return ~

大石学トリオ

EWSA-0108 ¥2,800 (税込)
2005/5/25 Release



日本的なリズムと心の琴線に触れるメロディを持つ楽曲。確かなテクニックに裏打ちされた演奏力で、多くのピアノ・トリオ・ファンを魅了してきた、大石学トリオの通算4枚目となる新作登場!!

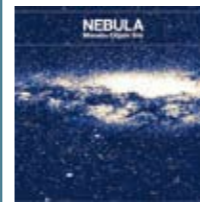
- 01. くり返されること ~ Seasons Return ~
- 02. Moon's Pass
- 03. 大地 (The Earth) / 04. A Touch Of Spring
- 05. One Autumn Evening / 06. A Starry Night In Winter
- 07. Drift / 08. Hot Spring / 09. All The Things You Are
- 10. Indian Summer / 11. Elegy

■バーソネル
大石学 (p, quena, japanese fl, fl, b melodion)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

NEBULA

大石学トリオ

EWSA-0092 ¥2,800 (税込)
2004/3/21 Release



「半歩」から「星雲」へと旅する——新流派の調べ、ピアノトリオの王道をいくサウンドでファンを魅了してきた大石学トリオが、新たなスタンダードを創り出す!

- 01. Heavenly Sheep / 02. Time Flies
- 03. NEBULA / 04. Everything I Love
- 05. Colors In The Dusk / 06. 月と火星
- 07. For Long / 08. Round Midnight
- 09. Moon Shade / 10. ゆるやかな時間

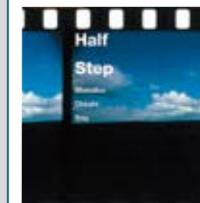
*CD/SACD ハイブリッドディスク

■バーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

Half Step

大石学トリオ

EWCD-0070 ¥2,300 (税込)
2003/2/21 Release



「美し過ぎるピアノ、麗し過ぎる名曲の数々、シングルし過ぎるリズム陣、その一体感を聴け」(寺島靖國)

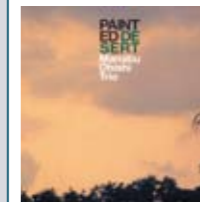
- 01. Long Ago & Far Away / 02. My One And Only Love
- 03. 五月雨 / 04. Half Step / 05. 壊れ行く地球
- 06. Peace / 07. I Didn't Know What Time It Was
- 08. Dark & Bright / 09. I'm Yours / 10. Eternal
- 11. 追憶の中に (For Sakura Matsuoka)

■バーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

PAINTED DESERT

大石学トリオ

EWCD-0038 ¥2,310 (税込)
2002/1/21 Release



「美しいピアノトリオ」というシンプルなコンセプトへのこだわりは、想像を越えた美しい響きのアルバムを生んだ。

- 01. But Beautiful / 02. Painted Desert / 03. I Hear A Rhapsody
- 04. Body&Soul / 05. Softly As In A Morning Sunrise
- 06. Moon River / 07. Soul Power
- 08. Aka-Tombo / 09. In The Moonlight

■バーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

大石学トリオ CD「Voyager」発売記念ライブ

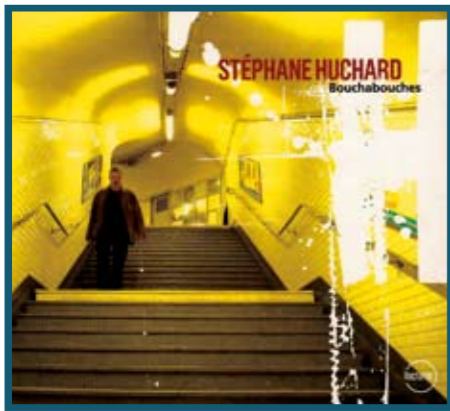
- 05/14 (日) お茶の水ナル ▶ 03-3291-2321
- 06/19 (月) 吉祥寺サムタイム ▶ 0422-21-6336
- 06/23 (金) 名古屋ラブリー ▶ 052-951-6085
- 06/24 (土) 新富士ケルン ▶ 0545-52-0468
- 06/25 (日) 浜松 雪月花 ▶ 053-587-8256
大石学、鈴木麻美 (VOL)
- 06/26 (月) 三鷹ウナマス ▶ 0422-36-6252
- 07/25 (火) 吉祥寺サムタイム(Dr. セシル・モンロー)
- 07/27 (木) お茶の水ナル
- 08/08 (火) 古河アップス ▶ 0280-32-4713
- 08/10 (木) 横浜モーショングラフ横浜 ▶ 045-226-1933
- 08/21 (月) 吉祥寺サムタイム 大石学 ▶ Pf Solo
- 08/24 (木) 京都 RAG Pf Solo ▶ 075-241-0446
- 08/25 (金) 金沢もつきり屋 ▶ 076-231-0096
Pf Solo + セッション
- 08/26 (土) 岡山県 勝山市西蔵辻本店 ▶ 0867-44-3155
- 08/27 (日) 下関 JAZZ CLUB BILLIE ▶ 0832-63-6555
- 08/29 (火) 博多/バックステージ ▶ 092-712-2828
- 08/31 (木) 名古屋スターアイズ ▶ 052-763-2636
大石学、東川エミ (VOL) Duo
- 09/01 (金) 四日市ビーボ ▶ 0593-53-1233
- 09/02 (土) 吉良町インテルサット ▶ 0563-35-0972
- 09/03 (日) 伊豆/バターノート ▶ 0557-33-1122
- 09/26 (木) 角田芸術小劇場 ▶ 022-275-5200 (間) ウォーキン
- 09/27 (金) 仙台芸術小劇場 ▶ 022-275-5200 (間) ウォーキン
- 09/28 (土) 古川花の館 ▶ 022-923-4648
- 09/29 (日) 気仙沼/バンガード ▶ 0226-22-6411
- 11/11 (土) 飯田キャンパス ▶ 0265-53-6652
Pf Solo (ゲストです)
- 11/12 (日) 山梨月下草舎 ▶ 0551-36-4801

ひとの無意識を刺激する 音の釣り針。



連載 vol.5

text by 小沼純一



Bouchabouches / Stéphane Huchard

Nocturne -NTCD384

01. Bouchabouches
02. Rush
03. Jazzy dans l'métro
04. Trompe l'oreille
05. Escalator
06. La vie duraille
07. Ragga rapt
08. Les pas
09. Seventies sub
10. Sous-sol mélodie
11. Métro peaux lisses
12. Terminus

【パーソネル】

Eric Legnini (clavinet/Fender Rhodes, Wurliizer and acoustic piano)
Alexandere Tassel (flugelhorn)
Laurent Vernery (acoustic bass)
Stéphane Huchard (drums/percussions/subway samples programming)

André Minvielle (vocals)
Rick Margitza (tenor saxophone)
Olivier Louvel (bouzouki / saz / acoustic, electric and fretless guitar)

赤ん坊にありがちなように、ステファヌもまわりのものをよく叩いていた。7歳にして、父親のアカーデオ、兄のピアノと一緒に演奏。少し経って

「Bouchabouches」強引に英訳すれば「Mouth-onmouths」——意識ではMetro in (a) Trans-とでもなるタイトル、スタファヌ・ユシャル3枚目のリーダー・アルバムは、パリのメトロがテーマだ。ジャケッットや曲名だけではなく、メトロの音をサンプリングし、ところどころに挿入したり。

「ジャケッットは、メトロのホームに降りてゆくひとりの男性。裏側には、駅のポスターに見入るミュージシャンとともに、収録されている12曲が、路線図のようなデザインで描かれている。ノンブルがあり曲名がある。参加しているメンバーが、各駅の乗り換え線のように略称で記されて。ん？ 始発は5時35分、終電は0時47分。これは…よくわからない。各曲のタイトルも、すべて「わかる」わけではない。言葉遊びもあるのだが、「ラッジュ」(メトロ内ジャジー)、「エスカレーター」といったように、メトロと何らかのかたちでつながっている。

「Bouchabouches」は、「ジャズ原理主義」から身をかわす、しなやかに。

およぼしている。ブズーキやサズーを加えることで、アンサンブルの質感が変化する。フェンダー・ローズ・ピアノ(あの重い鍵盤!)の、フリーゲルホーンの独特の柔らかみ、ちよつとだけフュージョン風のノスタルジーを加える。そう、リュック・ベッソンではないが、駅という複数の広がり、それらをつなぐメ

からはロックバンド、さらに15歳でジャズに目覚め、以後、ドラムスの道にはいってゆく。「ステファヌ・ユシャル」なる姓名、はたしてどこで見たのだったか。アルバムを手に入れてからしばらく考えていた。すると、そうか、こんなところかと思いついたのである。前にとりあげたステファヌ・ベルモンドとともに、ビッグバンド・リュミエールのアルバム『Rhythm A Ning』に参加していたのだ。

ビッグバンド・リュミエール、記憶しておられるだろうか。ロラン・キューニが率いるこのフランスのジャズ・オーケストラは、ギル・エヴァンスを招き、ギルのアレンジを演奏、録音したのである。1987年、天才アレンジャーの亡くなる1年前のことだ。そしてキューニは大著『ギル・エヴァンスの音楽的生涯』——中条省平訳もある——を発表するだろう。



Impression of Tristano

序章

第一回
文&カット 平井庸一

今回から jazztoday に文章を書かせていただくことになった平井です。

簡単に自己紹介させていただくと、現在は新宿ピットインの昼の部や桜木町ドルフィー、などでライブ活動をしており、'99年以降自分のリーダーバンドでは、ほぼレーニー・トリスターノ派の楽曲のみをひたすら演奏しています(楽器はギター)。本誌編集長の末次さんに初めてお会いしたのは'01年頃岡崎の内田修先生と一緒にライブにいらしてくれた時でしたがその辺りの話はまたの機会にすると、連載を始めるにあたって編集長からの依頼は、なぜ今トリスターノの音楽を演奏しているのか、一体それぞれのどこが魅力的なのか、といった音楽の内容についてのことに加えて、バンドのメンバーたちはたいてい見返り(経済的な、あるいはキャリアのプラスになるような)もないのにどうして何年も参加し続けているのか、などについて書いてみないかということでした。これまでも多数のミュージシャンの方々がトリスターノを研究しているにもかかわらず、自分のような若造(社会一般の基準では全然若くないですが…)がトリスターノについて語ってしまってもよいのだろうかとも考えましたが、無名のミュージシャンがメディアに意見を述べさせてもらえるような機会などそうあることではないし、今の若い世代からみたトリスターノ像のようなものもあるのではないかとも思い、やらせていただくことにしました。どういう連載になるのかまだわかりませんがよろしくお付き合いください。

まずトリスターノの音楽にここまで傾倒するようになったのは、現在も共に演奏しているピアノの都築猛と知り合ったことがきっかけでした。出会った経緯は重要ではないので省略しますが、お互いトリスターノとキング・クリムゾン(…)が好きだということで意気投合し、Real Book に何曲か載っていたコニッツの曲を練習して一緒にやってみた(もちろんコニッツの曲のテーマを弾くことは大変なのですが、一人でやるのは気が重くても、道連れになる人間がいればやろうという気にもなります)のです。ところがいざ弾いてみるとどうも原曲と違うなところが多々あり、譜面を修正しているうちにこれならば自分で一から採譜したほうが早いと思い、解らない部分はスピードを半分に落として確認しながらトリスターノ派の曲のテーマやアドリブを色々とトランスクリプトしていきました。曲によってはテーマがきちんと完奏されている演奏が廃盤になったLPにししか入って



なかつたり、同じ曲でもバージョンごとに微妙に異なっていたりするので、バイトの帰りに毎日レコード屋めぐりをしてコピーの参考にするための音源を探して買い漁っていたのですが、その過程でコニッツ、マーシュ、テッド・ブラウン、サル・モスカ、ピーター・インドといったトリスターノの有名な高弟以外の、コニー・クローザース、アラン・ブロードベント(この人がトリスターノの弟子だということはあまり知られていませんが、けっこう師匠の曲をカバーしています)、レーニー・ポプキンなど、コニッツらの次世代の直弟子たち、チャス・パーチェル、デイブ・クリフ、デレク・フィリップス等、ピーター・インドの門下生たち、また弟子ではないがトリスターノの影響を大きく受け、その楽曲も演奏しているクレア・フィッシャー、ゲイリー・フォスター、アンソニー・ブラクストンのような人たちを知るようにもなりました。そうやって日々トリスターノ関連の音源を聴き、採譜・分析を続けているうちにますますこの音楽にのめりこんでいき、いつしかこれを自分たちのバンドでできないだろうか考えるようになったのです。(つづく)

【ひらい・よういち】…ギター奏者/1970年東京生まれ。大学時代に高嶋宏にジャズ・ギターを師事する。キャバレーのハコパンでの修行を経てライブ活動を開始。使用楽器は、オールドのGibson ES-125とシャードウッドギター特製セミアコ・バリトンギター。

LIVE スケジュール

- 5/27(土) PM2:00 吉祥寺 MEG(昼)…w/ 都築猛(p), 蛸子健太郎(b), ゲスト: 増田ひろみ(as) …ジミー・ジュフリーの曲も演奏します。ジュフリー、ポール・ブレイのトリオとタル・ファロウ、エディ・コスタのトリオの中間的(?)サウンド。
- 6/16(金) PM2:30 新宿 PIT-INN(昼)…w/ 都築, 蛸子 w/ 橋爪亮督(ts), 増田…2種類のトリオと全員での演奏。

- 6/21(水) PM7:30 桜木町 DOLPHY…w/ 海道雄高(b), 竹下宗男(dr), 都築, 増田, 橋爪…レギュラーバンドでの演奏。トリスターノ関連の曲のみです。
- 毎週金曜日 PM7:30 六本木 FIRST STAGE 03-3405-1910 (ジャム・セッション進行: 5月いっぱいまでは木曜日)…社会人中心のセッションです。楽器は全て置いてあります。奮って参加を!

MOONKS EXPERIENCE NEWS



1. 福居良 / SCENERY
2. 白木秀雄 / 祭りの幻想
3. 菅野光亮 / 詩仙堂の秋
4. 古谷充とザ・フレッシュメン / ファンキー・ドライブ & 民謡集
5. 菊池成孔 / 南米のエリザベス・テイラー
6. 大石学 / くり返されること

「和ジャズ」ブームの兆し

Text by 大河内善宏 (MOONKS)

最近復刻されるCDはとにかく面白い。かなりマニアックとされるヨーロッパの作品がカンガン発売される。毎月それだけを買っていても充分楽しめるほどだ。

センスのいいDJ、ヨーロッパ1800、Next Standard、Double Standardといった本、そして澤野工房の功績が大きい。

今、音楽は完全にボーダレスで聴く時代になっている。年代や、ジャンル、国籍にとらわれず、いい音源が紹介されることは嬉しい。そんな作品の中にはジャズ・ファンもハッとさせるものも多く、確実にジャズ・ファンの裾野を広げている。クラブを通過した耳のいいリスナーが刺激的な音をジャズに求めるようになってきているからだ。

また、最後の聖域とされる和ジャズへの関心が今高まっている。昨年DJに人気の高い福居良の『SCENERY』、菅野光亮の『詩仙堂の秋』、白木秀雄の『祭りの幻想』と『コンプリート加山雄三の世界』がCD化され、ロングランヒットしている。従来のジャズ・ファ

ンに留まらず、多くのリスナーにとって和ジャズの魅力を認識するキッカケとなるCDになったに違いない。

和ジャズにはアメリカやヨーロッパにない独特のグルーブがある。福居良の父は津軽三味線の名人、福居天童。オリジナル曲にみられる独特の疾走感は津軽三味線のグルーブ感そのものだ。白木秀雄は神田明神の近くで育っている。あのドラミングはまさに祭囃子のリズム。日本人が持っている究極のリズムが見事に消化されており、当然リスナーの潜在的にもっている音楽細胞を直撃する。感度のいいアンテナをもったリスナーたちは和ジャズのクオオリティの高さに気付いたはずだ。

そんななかジャズ批評131号、132号で和ジャズの名盤が300枚強紹介された。和ジャズを体系的に紹介した本は恐らく初めてだ。今後、和ジャズのバイブルになりそうだ。

また、ディスクユニオン (TINK!RECORDS)

が「昭和ジャズ復刻シリーズ~ JAPANESE JAZZ CLASSICS」をスタートさせた。毎月、レア度も内容も横綱級の作品が続々リリースされそう。第三回までのライブラリーをみても、白木秀雄『ステレオ・ドラム & ブラック・モード』、古谷充とザ・フレッシュメン『ファンキー・ドライブ & 民謡集』、松本英彦『松本英彦のモダン・ジャズ』、中村八大『メモリーズ・オブ・リリアン』、太田寛二『ブルー・ハイランド』など、ほとんどが初CD化のワクワクする作品ばかりだ。一部のマニアの間では高値で取引されるアイテムではあるが、一般的には正当な評価を受けていない。この機会に失われた50年間の和ジャズを自らの耳と体で体感しようと思っている。

ただし、和ジャズは過去の名盤に限定されたものではない。上原ひろみや菊池成孔といった才能あふれる若いアーティストも出てきている。また大石学、大西順子などのベテランも元気がいい。ライブに足を運べばきっと刺激のある音に出会えるはずだ。

Everything in Buenos Aires



ブエノスアイレスの「今」が響く。

text & photography by @suesugu (本誌編集長)

山本精一 & 勝井祐二とアルゼンチン音響派の録音+ライヴ取材のため、ブエノスアイレスに渡ってから早一年が経過する。かの街の歴史や文化を学習したのはむしろ帰国後だ。映画『ブエノスアイレスの夜』や『ラテンアメリカの光と影』を観ては驚愕し、マヌエル・プイグやフリオ・コルタサルやホルヘ・ルイス・ボルヘスの作品を読んではその国民性に魅せられ、成果の第一弾アルバム『Chupio』や菊池成孔の『南米のエリザベス・テイラー』をくり返し聴いてはあの街の闇を想い出していた。これを綴っている背後からは最新作『IZUMI』の音響が流れ、まどろむような二日間のスタジオ光景が脳裡に蘇ってくる。

そして7月になれば、今度はブエノスアイレスから彼らがやってきて、日本の土を踏む。どんな映像記録よりも、どんな文学作品よりも、ホットでリアルな音色でかの街の空気感を伝えてくれるアルゼンチン音響派の面々が！アルゼンチンにはあまりにも遠い。あの極上のワインの舌触りも形勢しがたい厚肉の美味もそう容易くはありつけない。しかし、フェルナンド・カブサッキたちの玄妙な調べを一度でも生で体験すれば、耳に誘われるまま長時間飛行の旅を英断する聴衆は何人かいるだろう。見逃せない初夏のサプライズ・ツアー！

山本精一・勝井祐二 (ROVO) プロデュース 〈アルゼンチン音響派スペシャル・ユニット〉ジャパン・ツアー 2006

- 7/1 (土) 東京 浅草アサヒ・アートスクエア (ゲスト: UA)
- 7/2 (日) 大阪 Bridge (ゲスト: 内橋和久 OORUTAICHI, YAMATO, 亀井奈穂子, 千住宗臣)
- 7/3 (月) 広島 クラブクアトロ
- 7/5 (水) 京都 磔磔
- 7/6 (木) 名古屋 TOKUZO
- 7/7 (金) 東京 キネマ倶楽部

act: ROVO + アルゼンチン音響派スペシャルユニット
19:00 開場 / 20:00 開演 前売 ¥5,000 / 当日 ¥5,500

問: プランクトン (03-3498-2881) <http://plankton.co.jp/>



IZUMI - Buenos Aires Session Vol.#2

EWCD-2012 ¥2,500(税込)

1. Micro Takes 2 / No.1
2. Take 1
3. Before Pizza

Produced by Katsui Yuji, Yamamoto Seiichi, Fernando Kabusacki

it saw, it heard and it wrote.

Jazz Today

NEW DISC INDEX

矢野沙織コレクション～ALL THAT JIVE～Birth of Be-Bop(ビ・バップの誕生)

V.A Jroom/SAVOY COCB-53543 ¥2,000(税込) 2006/5/24 Release



矢野沙織が進んだビ・バップ・コレクション。ビ・バップ創生記に活躍をしたサヴォイ看板アーティスト達の貴重な音源からエディ・ジェファーソン、パプス・ゴンザレスをはじめ、チャーリー・パーカー、ディジー・ガレスピーまで、当時のアーティスト達の熱気を伝えるサヴォイ・ジャズの決定盤！

01. I Love The Rhythm In A Riff / 02. Oop Bop Shbam / 03. Flat Foot Floogie / 04. Poppy Pop / 05. Slime' s Jam / 06. Donna Lee / 07. Round Midnight / 08. The Old Master Painter / 09. On The Sunny Side Of The Street / 10. Pops Confessin' / 11. Oo-Shoo-Bee-Doo-Bee / 12. Oh! Lady Be Good / 13. I Got The Blues / 14. The Birdland Story / 15. Body And Soul / 16. Honeysuckle Rose / 17. Between The Devil & The Deep Blue Sea / 18. The Way You Look Tonight / 19. Trio Male Call / 20. Get Out Of The Bed / 21. The Boss Is Back-Omitology

十一種 東京中低域

真鍮レコード SCR-005 ¥1,890(税込) 2006/4/5 Release



「ずーんと体をゆさぶられながら妙に甘酸っぱい気分になるものを二つ、知っている。東京中低域の演奏と、突然落ちる恋の気分。」 唐沢俊一

01. 憂 / 02. レイン / 03. アタイを求めよ / 04. ヴンサ・モア / 05. ロスタイム切腹 / 06. 黒田清子の一日 / 07. 十一種

水谷 紹 (Baritone Saxophone)
後閑野宏 (Baritone Saxophone)
松本健一 (Baritone Saxophone)
田中邦和 (Baritone Saxophone)
鬼頭 哲 (Baritone Saxophone)
鈴木広志 (Baritone Saxophone)
小田島亨 (Baritone Saxophone)
柴野 曜 (Baritone Saxophone)
橋田純一 (Baritone Saxophone)
東 涼太 (Baritone Saxophone)

裏と表のカサノヴァ THE CORONA

Starman Records DDCS-4013 ¥1,995(税込) 2006/5/24 Release



「都市の野宴を体現するグルーブ 堆積した記憶と現在を切り結ぶコンポジション 陰と陽から成る CORONA のカサノヴァ」 STUDIO VOICE 編集部 松村正人

01. 1966年、街に群衆の踊り
02. 誕生レンバ
03. ホルへのサイケデリック・ブーガル
04. 接吻チャチャ
05. 夢の夢へのプロローグ
06. イマジン
07. 裏と表のカサノヴァ

うい(Vo)/吉川尚篤(dr)/Aya Lucca(Key)/リサ・オガサワラ(V)
伊藤修平 (Cello)/4ne(Congas)/山江うらどん (B)

矢野沙織コレクション～STOMPIN' AT THE SAVOY

V.A Jroom/SAVOY COCB-53544 ¥2,000(税込) 2006/5/24 Release



矢野沙織が進んだアラー・ソウル・コレクション。ナッピー・ブラウン、ジャズファンにも馴染みのリトル・ジミー・スコットなどのサヴォイの50年代を代表する当時のアーティスト達の熱気を伝えるサヴォイ・リズム・アンド・ブルースの決定盤！

01. Don't Be Angry / 02. Chop Chop Ching-A-Ling / 03. Don't Cry Baby / 04. Is It Really You? / 05. Pack, Shack And Stack / 06. Anna Mae / 07. Hot Rod / 08. Just Leave It To Me / 09. Shake Me Up, Baby / 10. Candy / 11. Why Did You Make Me Cry? / 12. Stop, Don't Go / 13. Little By Little / 14. Rib Joint / 15. Bad Boy / 16. I Got A Rock & Roll Gal / 17. The Right Time / 18. Bad Times / 19. You Better Believe / 20. Honky Tonk Caboose / 21. Step Up And Rescue Me / 22. No body

THE MASTER DAIRO&CREW

SEVEN STEPS THIFA-007 ¥2,500(税込) 2006/5/25 Release



Smooth & Mellow
個性派ミュージシャンによる一味違うラウンジ・ジャズを貴方に。とあるライブ・ハウスの、今は亡きマスターに捧げる宮本大路初のソロ・リーダー・アルバムに登場！

01. The Master / 02. Zytügen / 03. So In Love / 04. The Things We Did Last Summer / 05. Days of Wine and Roses / 06. What Are You Doing The Rest of Your Life? / 07. Terminal Care / 08. Moopee Game / 09. Triste / 10. For Heaven' s Sake / 11. The Master-replique>

宮本大路 (sax < soprano, alto, tenor, baritone >)
高橋ゲタ夫 (bass)
高崎カネ信義 (guitar)
則竹裕之 (drums)

TRUTH ～20th ANNIVERSARY～

V.A Village VRCL-3042 ¥2,310(税込) 2006/5/24 Release



01. TRUTH ～ 20th ANNIVERSARY Version ～ /EVOLUTION-K featuring T-SQUARE 2006年フジテレビ系「F1グランプリ」中継オープニング・テーマ / 02. TRUTH / THE SQUARE 1987～98年フジテレビ系「F1グランプリ」中継オープニング・テーマ / 03. TRUTH 1991 / T-SQUARE 本陣陣人在籍時の貴重なソプラノ・サクソフォーン / 04. TRUTH 21c / T-SQUARE plus 2001～2002年フジテレビ系「F1グランプリ」中継オープニング・テーマ / 05. UNIVERSO INTERIOR / T-SQUARE and FRIENDS (2002年発売のアルバム「ユニバース」に収録された歌入りヴァージョン) / 06. TRUTH Drum' n Bass Mix / RESONANCE-T featuring T-SQUARE 2003～2005年フジテレビ系「F1グランプリ」中継オープニング・テーマ / 07. TRUTH Future Satellite Mix / RESONANCE-T featuring T-SQUARE / 08. TRUTH-Version 05～T-SQUARE 2005年フジテレビ系「F1」ソフト「F1 05」に収録された最新の「バンドヴァージョン」 / 09. TRUTH Ballad Piano Version / 河野啓三 2006年フジテレビ系「F1グランプリ」番組挿入曲 / 10. TRUTH Ballad Guitar Version / 安藤まさひろ 2006年フジテレビ系「F1グランプリ」番組挿入曲
BONUS TRACK
11. TRUTH RESONANCE T-MIX (TV SIZE) / RESONANCE-T featuring T-SQUARE

TIMES SQUARE - LIVE at STB 139- エリック ミヤシロ

Village VRCL-11002 ¥3,095(税込) 2006/6/21 Release



日本を代表するスーパー・トランペッター「エリック ミヤシロ」率いる EM Band 待望の初ライブ・アルバム！ Super Audio CD 層には、サラウンド再生できる 5ch を収録。まるで会場にいるような迫力の臨場感を余す事無く、完全パッケージ！

01. BLUE BIRDLAND / 02. NO EXIT / 03. KOKOPELLI / 04. KEN' S BAR / 05. STELLA BY STARLIGHT / 06. TIMES SQUARE / 07. BASARA / 08. DANNY BOY / 09. LEFT BANK EXPRESS / 10. KICK UP

エリック ミヤシロ (Tp)
Drums: 岩瀬立飛 / Bass: 村上聖 / Pf: 林正樹 / Key: 新澤健一郎
Tp: 西村浩二 / 木橋光邦 / 佐々木史郎 / 小林正弘 / 佐久間勲
Tb: 中川英二郎 / 佐野聡 / 松本 浩 / 清岡太郎 / 山城純子
Saxophone: 佐藤達哉 / 鈴木明男 / 近藤和彦 / 黒野野教司 / 宮本大路

Four Corners

RAGMANIA RAGJ-0009 ¥3,000(税込) 2006/6/15 Release



まるでビーム・ペンダースのロードムービーの音楽版のように、スケールの大きなサウンドスケープが聴くものを包み込んでくれることだろう。

01. Eugene Intro / 02. Bingo / 03. Flag Staff / 04. Road To The Corner / 05. Ventura Shuffle (acoustic) / 05. Coyote / 07. Hogi / 08. Eugene Oregon / 09. Turn On The Star / 10. Rhino / 11. Kayenta / 12. Ventura Shuffle / 13. Eugene Outro

天野清雄 (Guitar)
則竹裕之 (Drums)
コモブチキイチロウ (Bass)
松本圭司 (Piano, Keyboards)

SMILE ジャネット・サイデル

fab MZCF-1094 ¥2,520(税込) 2006/5/24 Release



世界で一番優しい歌声
『いやあ、いいですねえ、ジャネット・サイデル。CDを新しく出すたびに「いいですねえ」の更新である。二度惚れ、三度惚れとはこのこと。ジャネット・サイデルのあり地獄に落ちたら二度とはい上がることはむずかしい。』 寺島靖国

01. ザ・ベスト・シング・フォー・ユー / 02. チーク・トゥ・チーク / 03. 42番街 / 04. マイ・フーリッシュ・ハート / 05. アイム・オールドファッションド / 06. ネイチャー・ボーイ / 07. 黒いオルフェ / 08. ゴールデン・イヤリング / 09. アイ・ウィッシュ・ラヴ / 10. ラヴ・レターズ / 11. カムス・ラヴ / 12. 愛の讃歌 / 13. ロッキン・チェア / 14. スマイル / 15. ウィンター・ムーン

ジャネット・サイデル (vo, p) / トム・ペイカー (vo, as) / チャック・モーガン (g) / イアン・テイト (g)
デヴィッド・サイデル (b) / ビリー・ロス (ds) / ケヴィン・ハント (p) / ウィリアム・ギャリソン (hca)
・・・他

トゥー・フォー・ザ・ミュージック 笹島明夫 & ロン・カーター

M&I MYCJ-30381 ¥2,800(税込) 2006/5/17 Release



アコースティック・ギターとベースの心地良く暖かいサウンド！ 笹島と旧友ロン・カーターが行なう貴重なデュオ・プロジェクト！

01. HUSH-A-BY / 02. IN YOUR OWN SWEET WAY / 03. ROAD SONG / 04. DIANGO / 05. DON' T EVER GO AWAY / 06. A NIGHTINGALE SANG IN BERKELEY SQUARE / 07. SPEAK LOW / 08. THE WAY YOU LOOK TONIGHT / 09. MEMORIES OF THE NORTHERN LAKE / 10. RECEIPT PLEASE / 11. SKYLARK

Akio Sasajima (guitar)
Ron Carter (bass)

恋に落ちた時 ジュニア・マンス・トリオ

M&I Jazz MYCJ-30380 ¥2,800(税込) 2006/5/17 Release



キラキラ輝くピアノの響きが発散させる色気、艶やかにダイレクトに訴えかけてくるエモーション！ ジュニア・マンズの新たな代表作が誕生した！！

01. GEE BABY, AIN' T I GOOD TO YOU / 02. SINGLE PETAL OF A ROSE / 03. DEEP PURPLE / 04. STELLA BY STARLIGHT / 05. WHEN I FALL IN LOVE / 06. A CHILD IS BORN / 07. STORMY WEATHER / 08. LAURA / 09. MISS OTIS REGRETS

Junior Mance (p)
John Webber (b)
Joe Farnsworth (ds)


internet radio station
JJazz.Net
Japan Jazz Network

大切なものに出会うために
その人にとって大切な音楽は、忘れられない新しい出会いを作ります。
大切な音楽。大切な人。大切な想い。

・毎週3つの最新プログラムをUP・全12カテゴリ・常時約50プログラム 500曲・月額¥1,050・<http://www.jjazz.net/>

【ジャズ本の新刊紹介】 **常盤 武彦 ジャズでめぐるニューヨーク**
角川 one テーマ 21 定価: 本体 886 円 (税別)

この本がもう一年早く上梓されていればなあ…昨年の NY 散策がさほど印象に残らなかった紹介者がそうないもの強請りしたくなるほど、かの都市のジャズ事情が網羅されている好著。著者の常盤武彦はニューヨーク大学(芸術学部写真専攻)を卒業後、現地のシーンを撮影しながら日米各社の CD カバーや音専誌のグラビア & 文章で活躍中。現地精通派ならではの人間と多彩な情報で編まれたカラー版の決定版ガイドである。各章も〈アンダーグラウンドからの発信〉〈マイルス・デイヴィスの DNA〉〈21 世紀のビッグバンド・ジャズ〉等々、偏りのない幅広く音楽家たちの肖像を紹介。これさえあれば、の一冊である！



1st round

round-a-bout

MEDIA NET CO./9th image music THIM-2003 ¥2,100 (税込) 2006/5/24 Release



4人の強力なリズムセクションと個性的なホーンセクションが炸裂するバンド round-a-bout (ラウンドアバウト)。各メンバーが書き下ろしたオリジナル全10曲は卓越したGROOVEでFUNKYな曲あり、奥深く叙情的な曲もあり極めて完成度の高い音楽を繰り広げる。ゲストヴォーカルに大友昌憲 (from GREEDY CHAIR) と Himiko が3曲ずつ参加も魅力。
01. roundabout / 02. いつか、きっと... / 03. I'm here for you, baby
04. Live it up! / 05. Talk to me / 06. I'm with you / 07. Young Mama
08. Don't let the nature fall apart / 09. Slow Down / 10. モノクロの街

小林 太 (Trumpet, Flugelhorn) / 金井 雅史 (Saxophone, Flute)
庵原 良司 (Saxophone) / 柿崎 洋一郎 (Keyboards, Talking Modulator) / 河越 重義 (Guitar) / 土井 孝幸 (Acoustic & Electric Bass) / 工藤 恭彦 (Drums & Percussions)
Guest Vocalists: 大友 昌憲 (from GREEDY CHAIR) & Himiko

a Love TANKA

organs cafe

slow note PCS-004 ¥1,000 (税込) 2006/5/17 Release



2004年に3枚のアルバムをリリース後ライブ活動を精力的に行い、音楽制作に入ったオルガズ・カフェの約1年半ぶりとなる新作が3曲入りのシングルとして登場。今作は全て生演奏にこだわり、「あくび」では DIMENSION の勝田一樹 (sax) を迎え、より Jazzy な雰囲気を出し、

01. a Love TANKA
02. あくび
03. smile

加藤沙香菜 (vo)
林良 (Key)

Paris to the moon ~パリから月へ

クリヤ・マコト

Silent PSCR-6173 ¥3,000 (税込) 2006/5/24 Release



遊歩するパリの心象。恐るべきリズム感覚と耽美なピアノ・タッチの見事な融和。クリヤ・マコト、初のピアノ・ソロ・アルバム。2005年11月、パリ録音。

01. Paris to the moon / 02. Stella by starlight / 03. Pensativa
04. Passage / 05. 鐘が鳴ります / 06. There will never be another you / 07. Peaceful / 08. Slight of the heart / 09. Autumn leaves
10. ベテカ / 11. Close to you

クリヤ・マコト (pf)

LS

Ryusenkei-Body

Mao DDCM-5013 ¥2,000 (税込) 2006/6/7 Release



音のフォルム、構造のカラー、二項対立のトラフィックミュージック

01. Animus quo#1 / 02. Saltus / 03. Maud / 04. Remember
05. It's You Or No One / 06. Topos / 07. Convertible / 08. Bar

伊藤匠 (サククス)
福益寛明 (コンピュータ)
早川徹 (ベース)
服部正嗣 (ドラム)

モーメンツ・イン・ライブ

秋田慎治

Leafage Jazz PCCY-30089 ¥2,800 (税込) 2006/5/17 Release



澄んだ感性から生み出されるエモーション・・・スーパースター TKY のピアニスト&コンポーザー、待望のソロ・デビュー!!

01. Spread to the Sky / 02. Summer Time / 03. Blue on You
04. Love for Sale / 05. >my wish your wish / 06. I've waited for you
07. Division of the View / 08. introduction / 09. Just Like It / 10. Road to the Lord / 11. Fahrenheit / 12. WTC / 13. Solitaire

秋田 慎治 (Piano)
鳥越 啓介 (Acoustic Bass)
小松 伸之 (Drums)
スティーブ・サククス (Flute 3, Alto Flute 8/9)
鈴木 実昭 (Tenor Sax 2/7)

青の時代

ヤスミン

レント舎 PCL-002 ¥2,300 (税込) 2006/5/17 Release



下北沢の Bar で出会い意気投合して結成されたユニットの約1年ぶりとなる2ndアルバム。Jazz、Blues、昭和歌謡など多彩なジャンルを混ぜ、アコースティックへのこだわりを感じるサウンドはおしゃれかつノスタルジック。メンバー自身が手掛けるジャケットワークも彼らの世界観を色濃く残す。

01. RUBY BLUE / 02. 青の時代 / 03. アネモネ / 04. Boogie Woogie Roller Coaster / 05. 上海ムーン・セレナーデ / 06. dolce / 07. 記憶のバフェューム / 08. 鏡よ鏡 / 09. ミステリーファン / 10. フラミンゴ・ホテル・306

Michi(vo)
Osamu(G)

「エルヴィン・ジョーンズ:ディファレント・ドラマ」 & 「ジャッキー・バイアード:エニシング・フォー・ジャズ」

エルヴィン・ジョーンズ/ジャッキー・バイアード

Nowondvd NODD-00064 ¥3,990 (税込) 2006/5/26 Release



ジャズ・ドラム界最大のイノヴェーター:エルヴィン・ジョーンズ、ジャズの復興を支えた名ピアニスト:ジャッキー・バイアード、ジャズ史上に残る貴重なドキュメンタリー作品が2in1でDVD発売!

■収録分数: 本編約51分
■仕様: 片面1層 リニアPCM 画面サイズ43 日本語字幕入り
■著作権表記: (c) DIFFERENT DRUMMER: ELVIN JONES 1979, ANYTHING FOR JAZZ: JAKI BYARD 1980
■発売・販売: ナウオンメディア (株)
■URL: http://www.nowondvd.net/products/elvinjones/

エルヴィン・ジョーンズ (ドラム)、バット・ラバーベラ (サククス)、川崎雄 (ギター)、デヴィット・ウイリアムズ (ベース)、ジョン・コルトレーン (アーカイブ映像)
Jaki Byard 編
ジャッキー・バイアード、ビル・エヴァンス (ピアニスト)、ロン・カーター (ベーシスト)

スウィング、スウィング、スウィング

マンハッタン・ジャズ・オーケストラ

VIDEOARTS VACM-1284 ¥2,940 (税込) 2006/5/24 Release



マンハッタン・ジャズ・オーケストラ (MJO) がお届けするスウィング・ビッグ・バンドの名曲リメイクの決定盤!

01. アイアンサイド / 02. スウィング、スウィング、スウィング / 03. ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド / 04. ムーンライト・セレナーデ / 05. A列車で行こう / 06. 愛のコリーダ / 07. マンデカ / 08. サウイでストップ

デビッド・マシューズ (p. arrange) / ルー・ソフロ (tp)
ライアン・カイザー (tp) on 3,5 & 7 / ランディ・ブレッカー (tp) except 3,5 & 7
ウォルター・ホワイト (tp) / スコット・ウェンホルト (tp) / ジム・ビュー (tp)
ジョン・フェック (tp) / ラリー・ファレル (tp) / デイヴ・テイラー (tp)
トニー・ブライス (tuba) / クリス・ハンター (sb, sb) / アーロン・ハイグ (ss, ts, sb)
スコット・ロビンソン (bd, ba) / ジョン・クラーク (dr) / フレッド・グリフィン (dr)
チップ・ジャンソン (b) / テリー・シルヴァーライト (d)

The live line!

6月の新宿ピットイン [夜の部]

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000 ~ (1DRINK 付)



6月1日(木) 流さ知らズ
©新宿ピットインにて5/1よりチケット(予約可)前売り開始。

6月2日(金) ジョージ大塚スペシャル・トリオ
ジョージ大塚 (Ds) 市川秀男 (P) 古野光昭 (B)

6月3日(土) 大友良英 Guitar SOLO

大友良英 (G)

6月4日(日) 西尾健一セッション
西尾健一 (Tp) 関根彰良 (G) 加藤英介 (P) 吉木稔 (B)
伊藤宏樹 (Ds)

6月5日(月) Hiroki Band
廣木光一 (G) 田中真正 (P) 飯田雅春 (B) 羽生一子 (Ds)

6月6日(火) 板倉克行 NIGHT
板倉克行 (P) ブレイズ・シブワラ Blaise Sibwa (As) 金剛 晋 (Sax)
岩見雅吾 (B) 池澤龍作 (Ds)

6月7日(水) 佐藤允彦 カルテット ¥3,500
佐藤允彦 (P) 山口真文 (Sax) 加藤真一 (B) 村上寛 (Ds)

6月8日(木) 鬼怒無月 / 芳垣安洋 DUO

鬼怒無月 (G)
芳垣安洋 (Ds, Per)

6月9日(金) 板橋文夫 (P) 森山威男 (Ds) 林栄一 (As)
望月英明 (B)

6月10日(土) 板橋文夫 (P) 森山威男 (Ds) 林栄一 (As)
望月英明 (B)
©新宿ピットインにて5/6よりチケット(予約可)前売り開始。

6月11日(日) 一噌幸弘「しらせ」
一噌幸弘 (笛, その他) 壺井彰久 (Vn) 吉見征樹 (Tabla)
茂戸藤浩司 (太鼓)

6月12日(月) 五十嵐一生カルテット
五十嵐一生 (Tp) 市川秀男 (P)
俵山昌之 (B) 本田珠也 (Ds)

■ 板橋・森山スペシャル・カルテット 2DAYS ■ ¥4,000

6月9日(金) 板橋文夫 (P) 森山威男 (Ds) 林栄一 (As)
望月英明 (B)

6月10日(土) 板橋文夫 (P) 森山威男 (Ds) 林栄一 (As)
望月英明 (B)
©新宿ピットインにて5/6よりチケット(予約可)前売り開始。

6月11日(日) 一噌幸弘「しらせ」
一噌幸弘 (笛, その他) 壺井彰久 (Vn) 吉見征樹 (Tabla)
茂戸藤浩司 (太鼓)

6月12日(月) 五十嵐一生カルテット
五十嵐一生 (Tp) 市川秀男 (P)
俵山昌之 (B) 本田珠也 (Ds)

6月13日(火) 丈青 SESSION 12
丈青 (P) 工藤 精 (B) 石崎 悠 (As) 斎藤 良 (Ds)

6月14日(水) Niida UNIT "duende"
新井田耕造 (Ds) 八木のぶお (Har) 矢野晴子, 岩戸有紀子 (Vn)
関島岳郎 (Tuba) コスマス・カピッツァ (Per)

6月15日(木) Satoko Fujii Quartet
藤井郷子 (P) 田村夏樹 (Tp) 早川岳晴 (B) 吉田達也 (Ds)

6月16日(金) 白庭潤 & YOUNG RABBITS
白庭潤 (Sax) 若井優也 (Key) 高瀬賢二 (G)
トオダイスケ (B) 福森 康 (Ds) 小澤敏也 (Per)
ゲスト: 小林香織 (As)

6月17日(土) Boris Kozlov Trio 前売 ¥4,500 当日 ¥5,000
ボリス・コスロフ (el-B) シーマス・ブレイク (Ts)
ジョナサン・ブレイク (Ds)
©新宿ピットインにて5/6よりチケット(予約可)前売り開始。

6月18日(日) Orquesta-Nudge! Nudge!
芳垣安洋, 岡部洋一, 高良久美子, 関根真理, 坂田学, 龍大
茶谷雅之 (Per) 高田陽平, Taichi, 中里たかし (Per)

6月19日(月) 渋谷毅 ORCHESTRA ¥3,500
渋谷毅 (P) 峰厚介 (Ts) 松風 一、林 栄一、津上研太 (Sax)
松本 治 (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B) 古澤良治郎 (Ds)

6月20日(火) What is HIP? + 高田みち子 ¥3,500
松木恒秀 (G) 野力 奏一 (Key) 岡沢 章 (B) 渡嘉敷祐一 (Ds)
ゲスト: 高田みち子 (Vo)

SHINJUKU PIT INN

〒160-0022
2-12-4 ACCORD BLDG. B1
Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN
☎ 03-3354-2024
http://www.pit-inn.com

6月21日(水) Nervio (ネルビオ)
新澤健一郎 (P, Key) 吉川英二 (Ts, Ss) 西崎 徹 (B)
岩瀬立飛 (Ds, Voice) ヤヒロトモヒロ (Per)

6月22日(木) 多田誠司 セッション
多田誠司, 秋山卓 (As) 川村 竜 (B) 紺野智之 (Ds)

6月23日(金) 芳垣安洋 KCS
芳垣安洋 (Ds, Per) 青木タイセイ (Tb, Pianica) 塩谷博之 (Ss, Cl)
高良久美子 (Vib, Marimba, Per) 吉野弘志 (B)

■ 村田陽一 2DAYS ■ ¥3,500

6月24日(土) ORCHESTRA
村田陽一 (Tb) 松島啓之、奥村 晶 (Tp)
山本拓夫, 竹野昌邦, 津上研太 (Sax)
青木タイセイ (Tb) 三好功郎 (P)
一本茂樹 (B) 佐野康夫 (Ds)

6月25日(日) Groove Jazz
村田陽一 (Tb) 小倉博和, 石成正人 (G) 小松秀行 (B) 佐野康夫 (Ds)

6月26日(月) 今村祐司 GROUP
今村祐司 (Per) 峰厚介 (Ts) 加藤崇之 (G) 渋谷 毅 (P, Or)
小泉 P 克人 (B) 本田珠也 (Ds)

6月27日(火) phonolite
水谷浩幸 (B)
竹野昌邦, 松風 一 (Sax)

6月28日(水) B-HOT CREATIONS
加藤真一 (B) 田中真正 (P) 斎藤 良 (Ds) Nobie (Vo)
6月29日(木) missing link
渡辺隆雄 (Tp) 後藤 篤 (Tb) 吉田隆一 (Bs) 中山 努 (Org, P, G)
早川岳晴 (B) 北澤 篤 (Ds) 関根真理 (Per)

6月30日(金) 林栄一 クインテット
林 栄一 (As) 渡辺隆雄 (Tp) 久保島直樹 (P) 伊藤啓太 (B)
小山 彰太 (Ds)



INFORMATION

INFORMATION

自然と音楽の共生を目指す日本最大級の野外ロックフェスティバル

SMASH go round

FUJI ROCK FESTIVAL '06

7月28日(金) 29日(土) 30日(日)

新潟県 湯沢町 苗場スキー場

http://fujirockfestival.com http://smash-mobile.com

今後の情報は FRF'06/ オフィシャルラジオ番組でも毎週お届けします。
"RADIO UP NINE" on the MEGA NET 毎週(日) 21:00-23:00 放送中
東京 InterFM 名古屋 RADIO-i 大阪 FM CO・CO・LO 福岡 Love FM
http://www.interfm.co.jp/

フジコレ 06 ウィンター、5/1 (月) より GREENonRED にて発売! http://www.greenonred.jp/

7/28 (金)

FRANZ FERDINAND / AFRA & INCREDIBLE BEATBOX BAND / ASIAN KUNG-FU GENERATION / ATMOSPHERE /BLACKALICIOUS / THE CRIBS / DONAVON FRANKENREITER / FIRE BALL with JUNGLE ROOTS / FLOGGING MOLLY / GANGA ZUMBA / GNARLS BARKLEY / A HUNDRED BIRDS / JET / 加藤登紀子 / NATSUME / NORTH MISSISSIPPI ALLSTARS / OOIOO / OVERGROUND ACOUSTIC UNDERGROUND / ROGER JOSEPH MANNING JR. / SCRATCH PERVERTS / 上々颱風 / THE SPINTO BAND / THE STRING CHEESE INCIDENT / THE TERRY ADAMS & STEVE FERGUSON QUARTET / TUCKER / 矢野顕子 / THE ZUTONS and more artists to be announced

7/29 (土)

RED HOT CHILI PEPPERS / THE BENEVOLO/RUSSO DUO / CLAP YOUR HANDS SAY YEAH / eastern youth / FIELDS / THE HIVES / HYPER - DJ SET / JOHNNY A / JUNIOR SENIOR / JUNKIE XL / KEN YOKOYAMA / 木村充揮 with 三宅伸治と FRF ALL STARS / ザ・キングトーンズ featuring ジミー入枝&ナンシー / KULA SHAKER / THE LIKE / locofrank / MARINES BIG BAND / MO' SOME TONEBENDER / MYSTERY JETS / RADIOSOULWAX PRESENTS NITEVERSIONS LIVE,2MANYDJS / THE RIFLES /SCISSOR SISTERS / SONIC YOUTH / STRAIGHTENER / THE STRING CHEESE INCIDENT/ TRASHCAN SINATRAS / TRISTAN PRETTYMAN / UA × 菊地成孔 / WOLFMOTHER / YEAH YEAH YEAHS and more artists to be announced

7/30 (日)

THE AUTOMATIC / BROKEN SOCIAL SCENE / DIGITALISM / Double Famous / ISIS / JASON MRAZ / KILLING JOKE / 鼓童 / KT TUNSTALL / Magnolia / MILBURN / MOGWAI / MUMM-RÄ / 大江慎也 / 小野リサ / らぞく / THE REFUGEE ALL STARS OF SIERRA LEONE / rinocerose / SNOW PATROL / SUPER FURRY ANIMALS / TOBY FOYEH AND ORCHESTRA AFRICA / ゆらゆら帝国 and more artists to be announced

★チケット先行予約受付中! 6/2 (金) まで

いよいよ出演日別ラインナップが発表されました。3日間の参加がなかなか難しそうな方、1日券は各日とも限定枚数の販売になります。お早めのお申し込みをお勧めいたします。先行予約は6/2 (金) までとなります。

◆販売チケット

- 入場券
 - 3日通し券: ¥39,800 (税込)
 - 1日券: ¥16,800 (税込) 各日限定 10,000 枚
- JR 越後湯沢駅から会場までの無料往復シャトルバスがご利用になれます
- 駐車券: ¥2,000 (1日1台・税込) 2名様より受付
 - 駐車券のみの受付はできません。入場券と併せて購入してください
- キャンプサイト券: ¥2,500 (1名様 / 開催期間中有効・税込)
 - キャンプサイト券のみの受付はできません。入場券と併せて購入してください

※ チケット購入前に必ず公式サイトなどで注意事項などをご確認ください。

◆受付

- SMASH MOBILE http://smash-mobile.com (携帯)
 - SMASH STOR http://www.smash-store.com (web)
 - イープラス http://eplus.jp/frf06/ (web・携帯)
 - チケットぴあ http://t.pia.co.jp/frf06/ (web)
 - 03-3237-5745 (各日 10:00~18:00)
- チケットぴあでの駐車券の取り扱いはありません
- FRF オフィシャルショップ 岩盤 http://www.ganban.net (web)
 - http://ganban.jp (携帯)



クリスタルボウル・インストルメンツ 倍音浴 in 鎌倉・光明寺

会場: 鎌倉 光明寺 開山堂 日程: 7/9 (日)
開場: 13:30 開演: 14:00 出演: 牧野持信 (じゅん) http://www.crystal-rainbowls.com
主催: 岩神六平事務所 Tel&Fax 046-876-0712 http://www.h5.dion.ne.jp/~roppei/
協力: 浄土宗大本山 光明寺
企画: ピンポイント http://www.pinpoint.ne.jp

倍音豊かな大小様々のクリスタル・ボウル、シンギング・リン、チベタン・ボウルによる牧野持信さんの演奏は、私たちを、かつて経験のない、不思議な音響空間へと誘います。クリスタルボウル、倍音浴ライブについての詳細は下記をご参照下さい。

http://www.pinpoint.ne.jp/event/



minga ツアー 2006

遂に詳細が決まりました。各地で沢山の方に会えるのを本当に楽しみにしております。尚、詳細は各ライブハウスにご確認ください。

5/26、27(金、土) 名古屋 Jazz in Lovely 052-951-6085 ~ MINGA All Stars ~
出演: 早坂、永田、新澤健一郎、小畑和彦 G、コスマス・カピッツァ per、ウインチェスター・ニー・テテ per

このあとは全て「早坂、永田、新澤健一郎、コスマス・カピッツァ per」の4人です。

5/28 (日) 大阪堺市「ゼロワン・ネーブルハウス」072-221-2000
5/29 (月) 京都磯崎 075-351-1321 開演 19:00
5/30 (火) 広島 LIVE Cafe jave 082-246-2949
5/31 (水) 山口県大津島/小室場・只只
6/03 (土) 鳥取県クラフト館岩井森野外コンサート



エルヴィス・コステロ

ロックやジャズ、クラシックなど様々なジャンルにおいて音楽的好奇心を満たして来ている多才なエルヴィス・コステロ。2004年9月に発表された『IL SOGNO』はコステロにとって初のオーケストラのための楽曲。シェークスピアの『真夏の夜の夢』よりインスパイアされた書きおろしのバレエ音楽で、イタリアのアテルヴェレットバレエ団の演出のために引き受けたプロジェクトとして2002年にボローニャで初演された作品。この作品がフル・オーケストラと共に遂に日本でも演奏されることが決定! 2部構成となる今回の公演は後半が「She」や「Smile」などのヒット曲を集めた演奏が予定され、様々なコステロが楽しめる内容となる。

6/2 (金): 東京国際フォーラムホールA
OPEN 6:00PM / START 7:00PM
全席指定 S席 ¥10,000、A席 ¥9,000 (税込)
(問) サックコーポレーション: 03-5474-9999
※未就学児のご入場は御遠慮ください。



エリック ミヤシロ ライブスケジュール

EM.Band のLIVE はエリック ミヤシロがリーダーのバンドになります。

4/24 STB E.M. バンド	6/25 神戸	07/30 横須賀
5/17 STB 守屋純子 LIVE	7/01 有楽町マリオン Clä 藤家虹二	小曾根真 NO NAME HORSES
5/19 名古屋ブルーノート EM.Band	7/11 アルバム発売記念 STB EM.Band	08/01 大阪 @ IMP ホール
5/20 名古屋ブルーノート EM.Band	7/21 オーチャード ホール	小曾根真 NO NAME HORSES
5/23 NHK ふれあいホール	山下洋輔 Big Band	08/05 オペラシティ
『シブヤらいぶ館』	7/22 オーチャード ホール	中川英二郎 プラスアンサンブル
6/15 愛知 with ケイコ・リー	山下洋輔 Big Band	08/19 長野
6/16 愛知 with ケイコ・リー	7/25 茨城・ひたちなか	08/20 ~ 24 奈良~大阪
6/23 立川	小曾根真 NO NAME HORSES	08/27 埼玉 コンサートクリニック
6/24 神戸	7/29 北海道	9/3 埼玉・入間 EM.Band
	小曾根真 NO NAME HORSES	



T-SQUARE Concert Tour 2006 "BLOOD MUSIC"

6月2日(金) 札幌 ベニーレーン 24 (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: WEISS 011-614-9999	6月17日(土) 大阪 なんば Hatch (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー大阪 06-6233-8888	全会場 チケット料金: ¥6,300- (税込) 着席スタイル (全席指定)
6月3日(土) 札幌 ベニーレーン 24 (開場 16:30 / 開演 17:00) お問合せ: WEISS 011-614-9999	6月18日(日) 名古屋 クラブダイヤモンドホール (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: グランドライン 052-935-7558	※東京・新潟以外は別途ドリンク代が必要となります。ご了承下さい。
6月10日(土) 仙台 Zepp Sendai (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー東北 022-296-8888	6月23日(金) 福岡 イムズホール (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: キョードー西日本 092-714-0159	
6月16日(金) 新潟 LOTS (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: キョードー北陸 025-245-5100	7月2日(日) 東京 メルパルクホール (開場 18:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー東京 03-3498-9999	



◎自由 / 衝和ショッキング (GTCR-05012)...

今年といふか、CKBやTZB、平井庸一グループ等、立て続けに「驚愕の新星」と遭遇したOutThere休刊時以来の衝撃バンド!! 常日頃から「こんなん、知ってるぅ?」と驚愕サウンド・仰天書籍・ド肝映像の発掘優越感を競っている磯田秀人氏(綾戸倶楽部主幹)に誘われて先日、何の事前情報も伏せられたまま彼らのライブ(@渋谷 Club asia)を初体験したのだが、とにかく凄い、素人晴らしい、男の胸騒ぎ最高潮、「オジサマ〜、いいものを教えてくれてアリ・ガ・ト・ウ〜!!」と思わず五十路眼をうるうるさせて喝采し、出口で躊躇なく本作を購入しちまった。ベタに書いたらポストCKB(じゃないけど)、ジャズのEW&F(でもないけど)、今後はこいつら!!



□舞城王太郎『熊の場所』(講談社NOVELS)...

近年の話題の覆面作家、舞城王太郎。かなり大袈裟な筆名に苦手意識を覚え、いわゆるライト・ノベルズといふ分野への敬遠性から今まで未読だったが、こいつの文体がとにかく凄い。〈圧倒的な文圧! もう誰も王太郎を止められない!〉とはノベルズの最後に躍っている広告文面だが、異議ナシ! 描かれている残忍さ満載の小説世界は決して好みではないのだが、その文圧に幻惑されたら最後、もう誰も王太郎アリ地獄から出られない。次いで『煙か土か食物』、さらに現在『九十九』と読み進めており、今月の入稿作業を最も邪魔した作家ナンバーワンである。

♪ JAZZTODAY in Komaba 2006...

5月17日〜22日まで、東大・駒場キャンパス内の多目的ホールにて行なわれた全日無料のライブ・イベント。同大における菊地+大谷組のジャズ講義仕掛け集団としても知られる、通称「ラブかな」(ラブレター・フロム・彼方)の面々が「新たな聴衆とジャズの出遭い」を謳って企画し、JazzTodayプロジェクトが賛同して実現した試みの第一弾。その模様や体験者の感想・印象に関しては現在、ネット上で飛び交っているが、連日立ち見が出る盛況ぶり。なかでも大友良英とジム・オロークの各ソロ即興演奏に加え、デレク・ベイリーの記録映像が上映された2日目は入口から人があふれるほどの人気であった。さて、第二弾はいつ、どこで、誰を迎えて行なわれるのか!?



◎YELLOW CARCASS IN THE BLUE / Kimiko Kasai with the Kosuke Mine Quartet(TBM CD 1808)...

先月は数年ぶりのラジオ出演を、MUSIC BIRD(衛星デジタルラジオ放送局)で放送中の好評2時間番組、『MOONKSのNew Jazz Generation』に招かれて、「JazzToday編集長とジャズの縁」をかなり赤裸々に(笑)語ってきたのだが、ジャズ指南役の同級生の思い出漸から始まって、いわゆる「初レコ」(自腹で買った最初のジャズ盤)としてかけたのが本作。じぶんの場合、ジャズ童貞破りの記念盤が「和ジャズ」だったのね〜といふ事実に変更が気づいた。どうりで「おジャズ様」にはならなかった!?

□内田樹著『態度が悪くてすみません〜内なる「他者」との出会い』(角川oneテーマ21)...

目下いちばん言説が面白いといふか、一読膝を叩く機会が多い哲学者、内田樹の新刊。第一章の冒頭、「だから女子大教育は必須なのである」を説いた「時の守護者」からクスクス、ワクワク、ふむふむさせて痛快そのもの。なかでもユリイカの『特集・はっぴえんど』に寄稿した文章、「大瀧詠一の系譜学」が卓見といふか秀逸(内田さんはナイアガラだったのね)。この一文を大瀧が気に入り、『文藝別冊』の大瀧本で対談相手に指名したといふ事後談も大いに納得できる。個人的には内田樹の「舞城王太郎論」を読んでみたいぞ…。



◎BILL EVANS Songbook vol.1 / MONTGOMERY / OKADA / SMITH Trio...

入稿間際といふか、校了直前にNishinomiya Cityの差出人から突如届いた黄色い封筒の中身がコレ。本誌の奥付コピーを宛先代わりにベタッと貼ってくるあたり、相手はガイ(国)ジンかなと思ったらピンポ〜!! 本作と一緒に「ウィリアム・モントゴメリー」さんの名刺が同封されていた。ライナーを読むと同氏、通称「モンちゃん」なんだとか(笑)。うう…新譜紹介欄には間一髪の遅刻到着で載せられないが、これを書き終えたらたっぶり鑑賞させていただきますよ、モンちゃん。世の中には知らない作品がいっぱい、あるんやなあ。感謝!